

「いじめの状況等に関する調査」の分析結果について

札幌市教育委員会指導室

1 調査目的

本調査は、子ども自身の受け止めに重視して行うものであり、児童生徒の実態や各校の取組状況をより適切に把握し、いじめの早期発見、早期対応に資することを目的とする。

(参考)「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」とする。(平成19年 文部科学省のいじめの定義)

2 調査対象と回収率

	小学校 <small>分校含む</small>	中学校 <small>分校含む</small>	高等学校 <small>定時制含む</small>	特別支援学校	合計
学校数	206校	99校	8校	2校	315校
児童生徒数	90,628人	46,249人	7,500人	231人	144,470人
調査提出児童生徒数	89,192人	43,751人	6,987人	215人	140,145人
回収率	98.4%	94.6%	93.2%	93.0%	97.0%
平成22年度 回収率	98.4%	94.0%	90.8%	96.8%	96.6%

※特別支援学校は、山の手養護学校と豊明高等養護学校2校を調査対象とした。

3 調査実施日程等

- (1) 学校への調査依頼通知日 平成23年11月1日(火)
- (2) 児童生徒調査用紙配布日 平成23年11月8日(火) <調査実施日>
- (3) 児童生徒調査用紙回収日 平成23年11月9日(水)
- (4) 市教委への調査用紙提出 平成23年11月17日(木)

4 調査内容及び方法等

- (1) 調査用紙は、本市のスクールカウンセラースーパーバイザーの助言のもと、学校用と児童生徒用の2種類を用意し、児童生徒用については、発達段階を踏まえ、設問事項の表現等に配慮した上で、全校種共通のものを作成した。
- (2) 児童生徒用調査用紙は、いじめの早期発見・早期対応の観点から記名式とし、さらに、プライバシー保護のため、各家庭で記入し、添付の封筒に入れ学校に提出するよう配慮した。
ただし、何らかの事情により、無記名を希望する、または提出を希望しない保護者や児童生徒がいる場合、その意向を尊重することとした。
- (3) 学校には、回収した調査結果を基に、関係する児童生徒に対し、その気持ちに配慮しつつ慎重に事実確認を行い、その不安やいじめ解消に向けた早期の取組を指示した。
- (4) 本調査では、いじめの実態を多面的に把握する観点から、児童生徒に直接質問する調査の他に、様々な理由から自己申告できない児童生徒もいることを予想し、自己申告されたもの以外に、他の方法により、学校が「いじめが疑われる」と判断している数についても調査することとした。
加えて、児童生徒への調査において「最近いじめられている人を見たり、聞いたりしたことがありますか」という質問も設け、本人以外からの情報も活用できるよう配慮した。

注1) 分析に当たっては、校種別(定時制高校4年生は高校3年生に組込んだ)を基本とし、本市のスクールカウンセラースーパーバイザーや有識者などからの助言等も参考にした。

なお、特別支援学校のデータは各校種のデータに加算した。

注2) 児童生徒用の調査における、各項目の数値については、無回答の児童生徒もいるため、回答数の合計が、必ずしも調査提出児童生徒数と一致していない。

5 調査結果と考察

<児童生徒の意識調査の結果と考察>

1 あなたは、今、いじめられていると思いますか。

【設問1】 あなたは、今、いじめられていると思いますか。

ア 思う イ 思わない

【参考】平成22年度

	小学校	中学校	高等学校	全体
思う	10,096	1,074	42	11,212
思わない	79,171	41,797	6,737	127,705
※調査提出児童生徒数	90,055	43,441	6,918	140,414

校種別人数 (人)

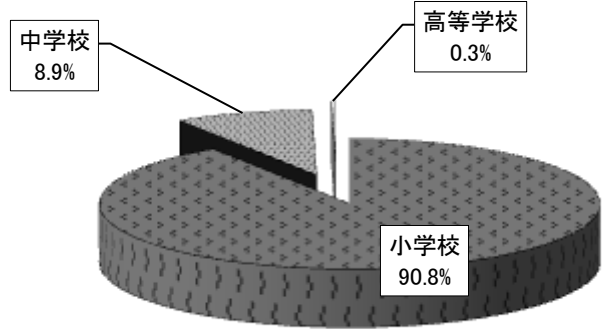
	小学校	中学校	高等学校	全体
思う	10,044	983	33	11,060
思わない	78,601	42,510	7,084	128,195
※調査提出児童生徒数	89,204	43,766	7,175	140,145

※「調査提出児童生徒数」については、これ以降「調査提出数」と記する。

校種別割合 (%)

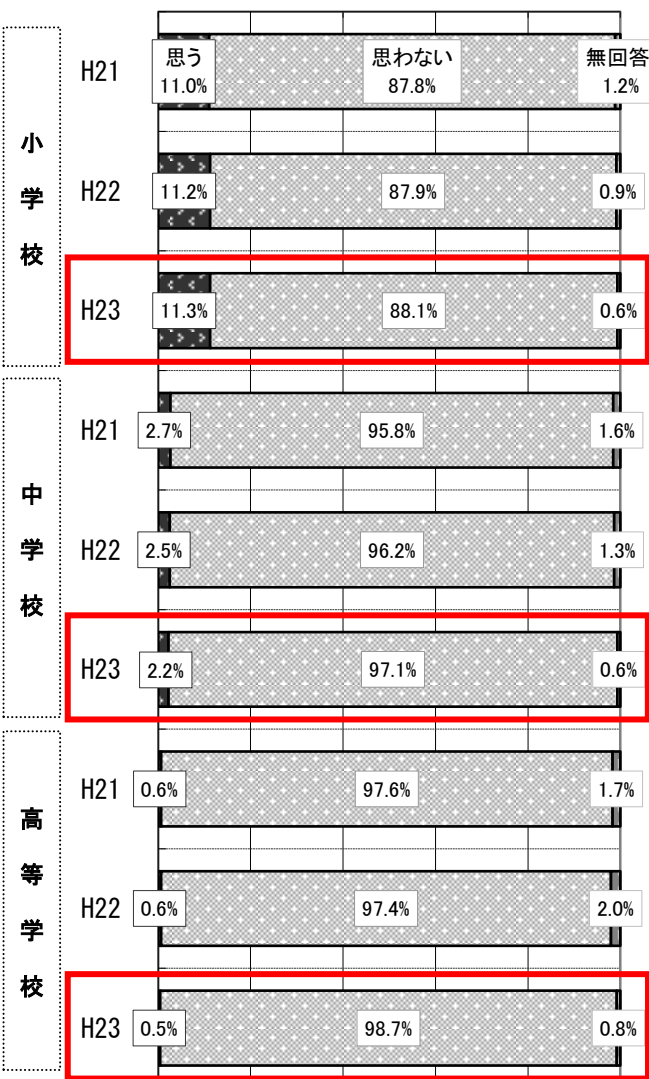
	小学校	中学校	高等学校	全体
思う	11.3%	2.2%	0.5%	7.9%
思わない	88.1%	97.1%	98.7%	91.5%

いじめられていると「思う」と答えた児童生徒の校種別割合



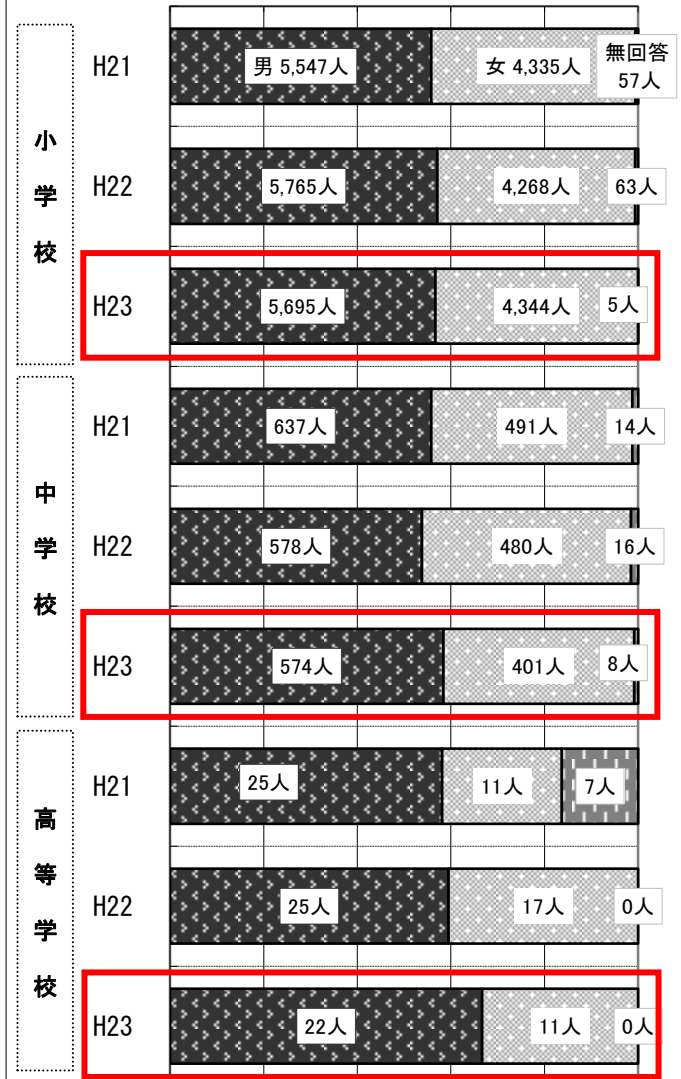
「思う」「思わない」の校種別割合

0% 20% 40% 60% 80% 100%



「思う」と答えた児童生徒の校種別男女比

0% 20% 40% 60% 80% 100%

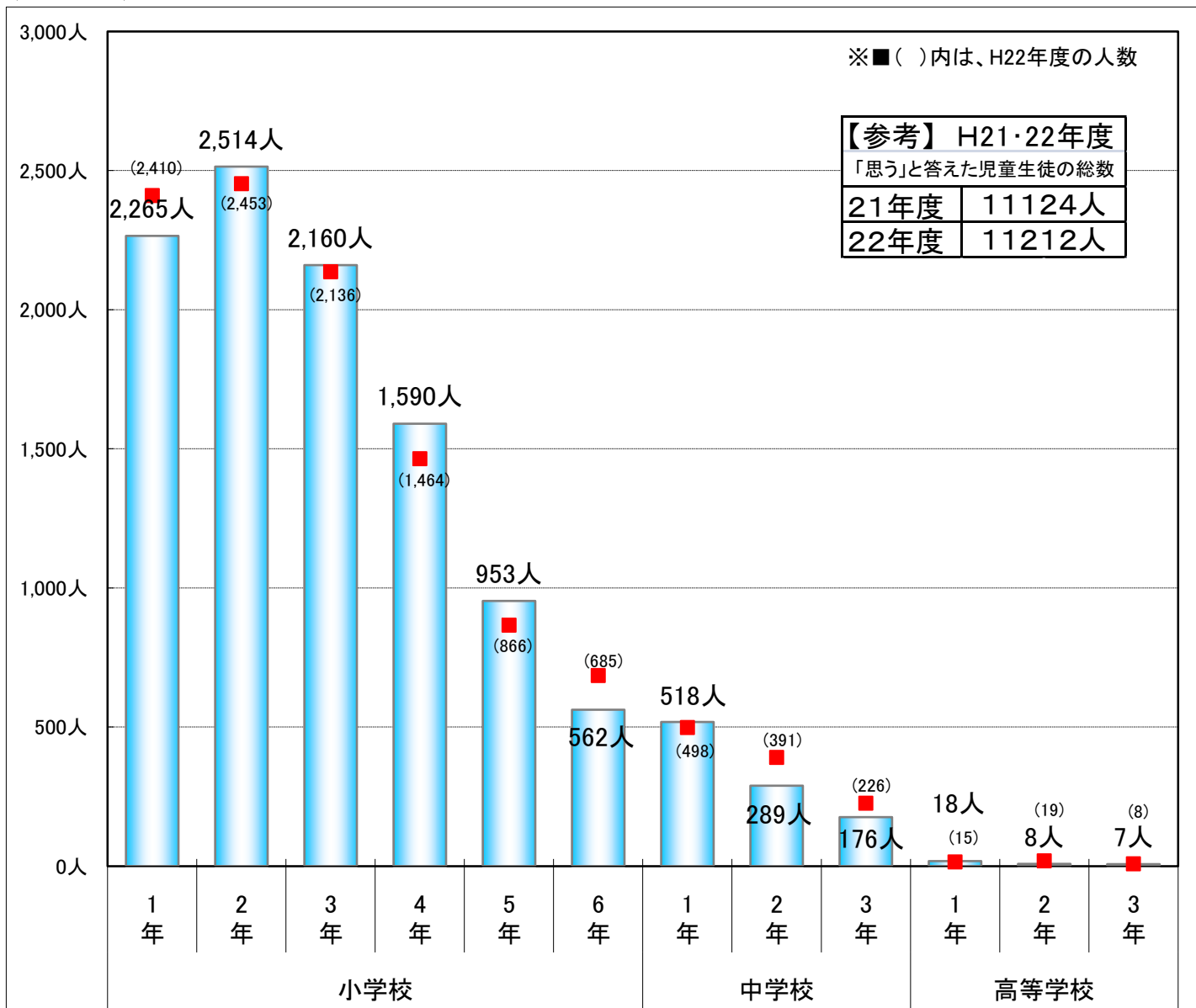


「思う」と答えた児童生徒の学年別人数

学年別人数

(人)

	小学校						中学校			高等学校			全体
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
思う	2,265	2,514	2,160	1,590	953	562	518	289	176	18	8	7	11,060
思わない	11,656	12,151	12,744	13,460	13,980	14,610	14,115	14,183	14,212	2,407	2,286	2,391	128,195
調査提出数	14,059	14,769	15,012	15,123	14,978	15,263	14,726	14,537	14,503	2,432	2,329	2,414	140,145
「思う」割合	16.1%	17.0%	14.4%	10.5%	6.4%	3.7%	3.5%	2.0%	1.2%	0.7%	0.3%	0.3%	7.9%



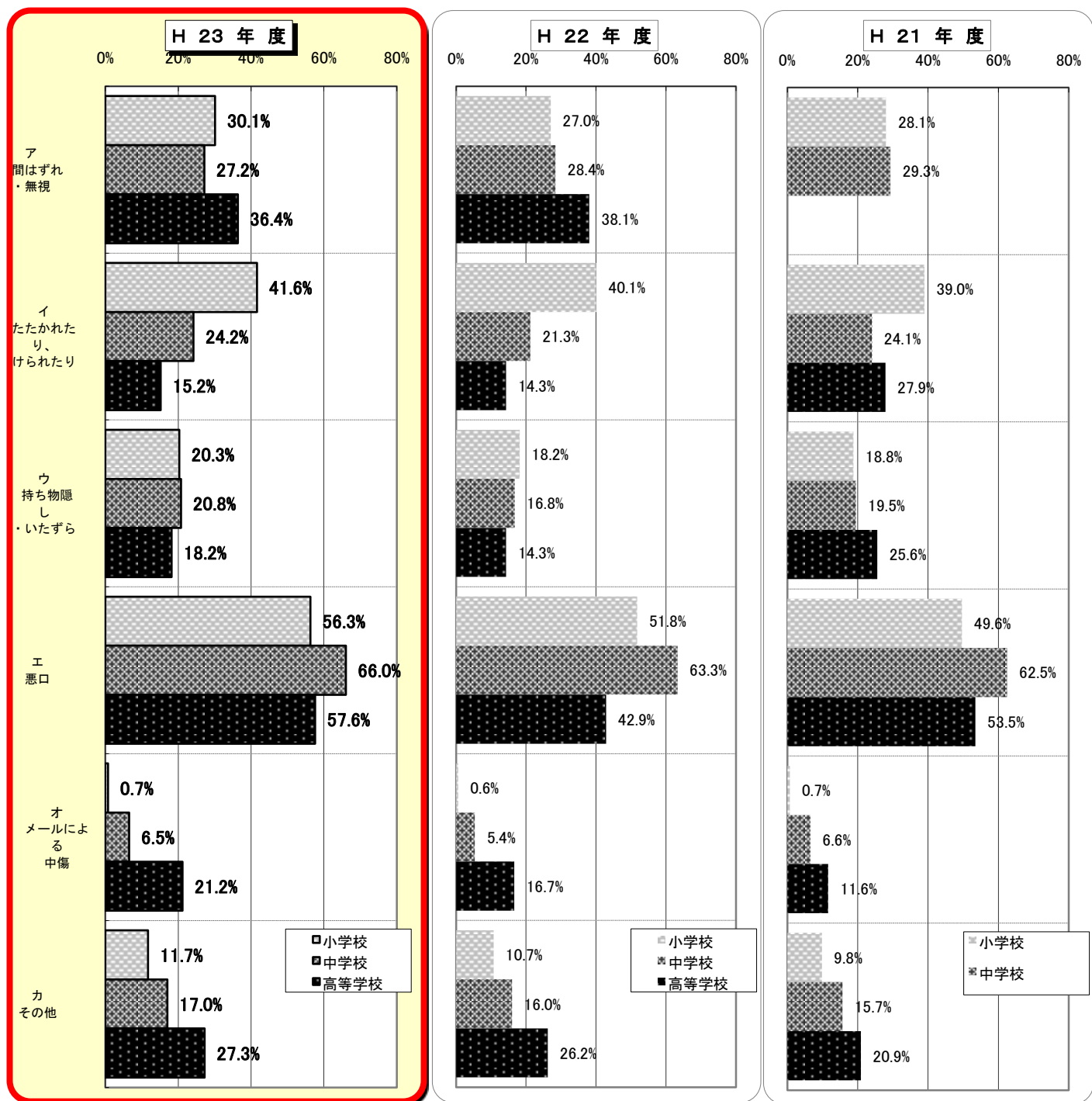
【考察】

- ・「いじめられていると思う」と回答した児童生徒の総数は11060人で、前年度に比べるとわずかではあるが減少した。
- ・これまでの調査結果と同様に、学年が上がるにつれて「思う」と回答する割合が低くなる傾向にある。年齢が上がるとともに、他者の心情を察することや表現力等のコミュニケーション能力が高まることでいじめが減っていくとも考えられるが、いじめている相手や周囲に伝わることによる影響を懸念して、調査に率直に回答していない人数が増えていることも考えられる。思春期特有の心理を踏まえ、子どもとの信頼関係を高めていくことやより多くの目で子どもを見ていくことなど、発達段階に応じた指導や対応が必要である。
- ・子どもの回答をそのまま集計しているため、小学校低学年では、些細なけんかなどいじめととらえて回答しているものが相当数含まれていると思われる。
- ・調査時の「思う」との回答については、その後、各学校で対応し、「いじめ」という状況ではなかったことが確認できたり、状況が改善したと捉えられるなど、99.9%が解決している(3月21日現在)。

2 いじめられていると思う人に聞きます。どんないじめですか。

【設問2】 設問1で「ア 思う」と答えた人に聞きます。それはどんないじめですか。（複数回答）

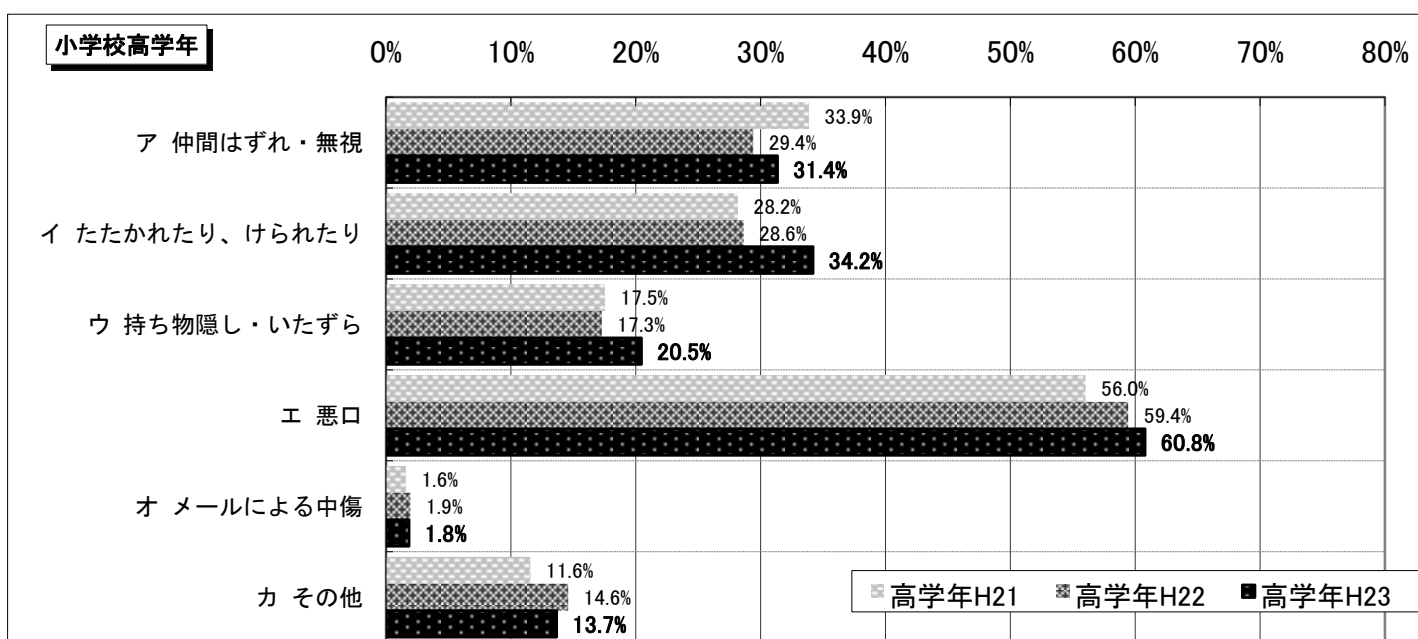
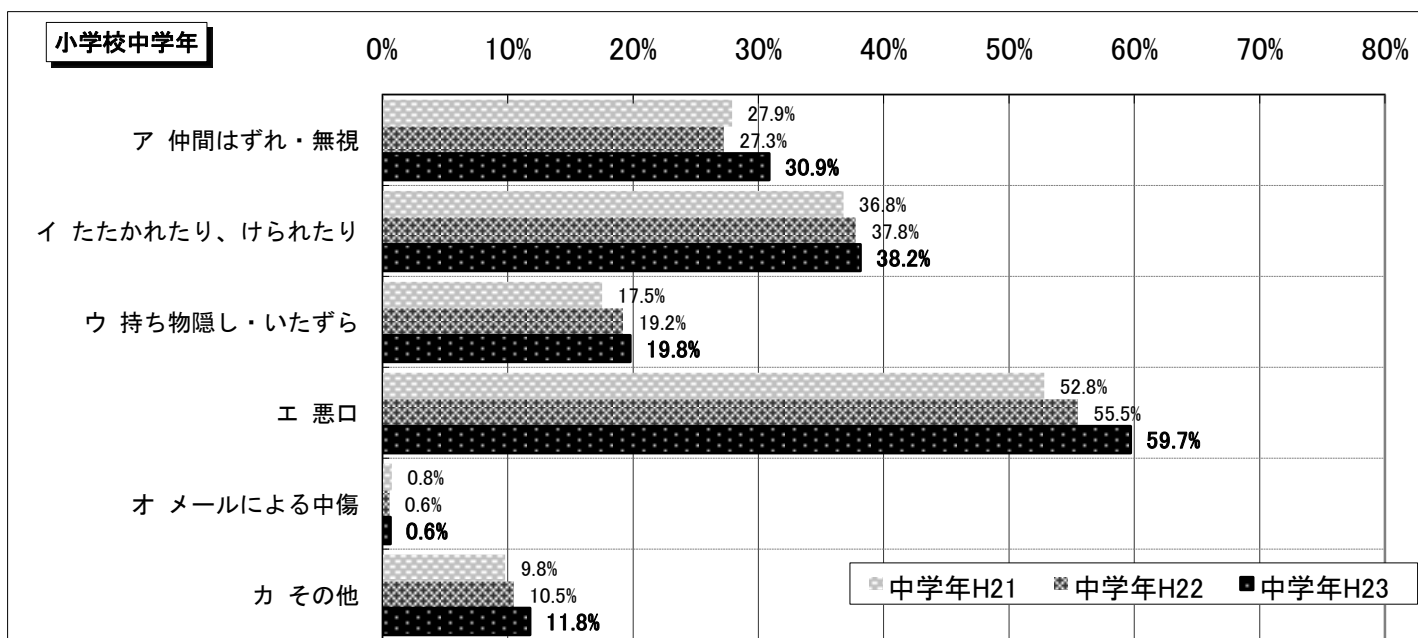
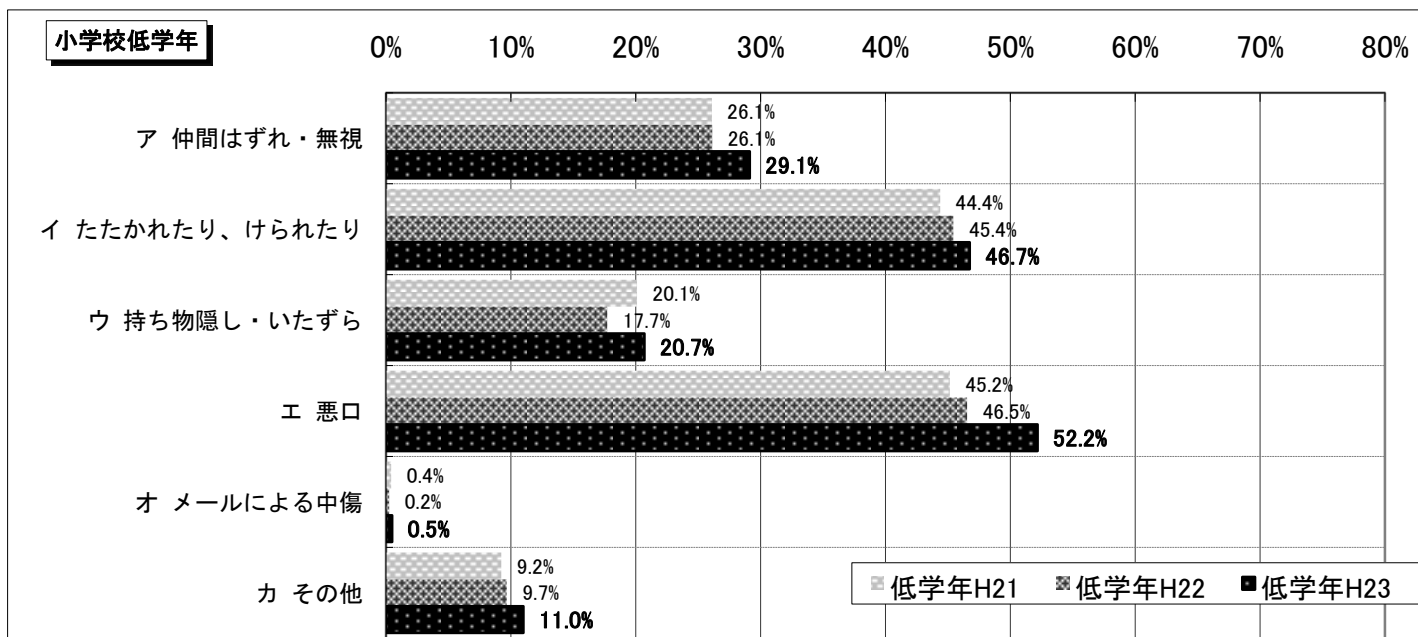
- | | |
|----------------------|------------------|
| ア 仲間はずれや無視される | イ たたかれたり、けられたりする |
| ウ 持ち物をかくされたり、いたずらされる | エ 悪口を言われる |
| オ 傷つくメールが送られてくる | カ その他 |



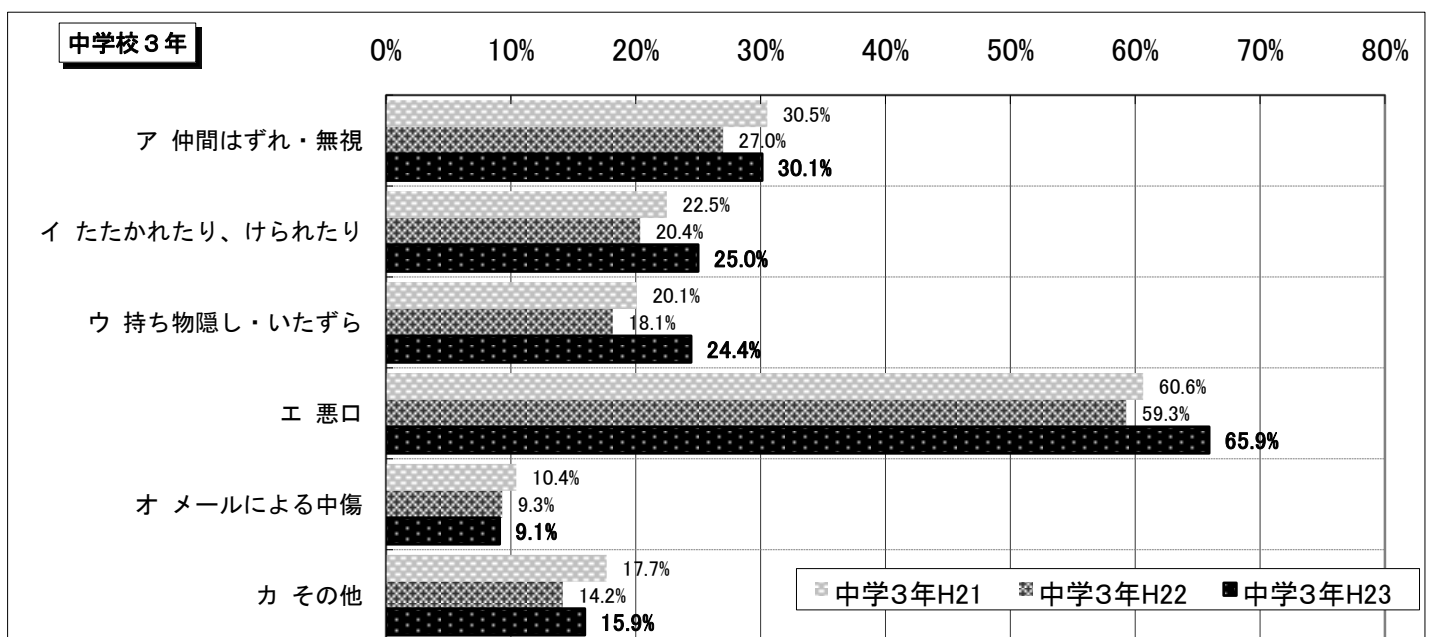
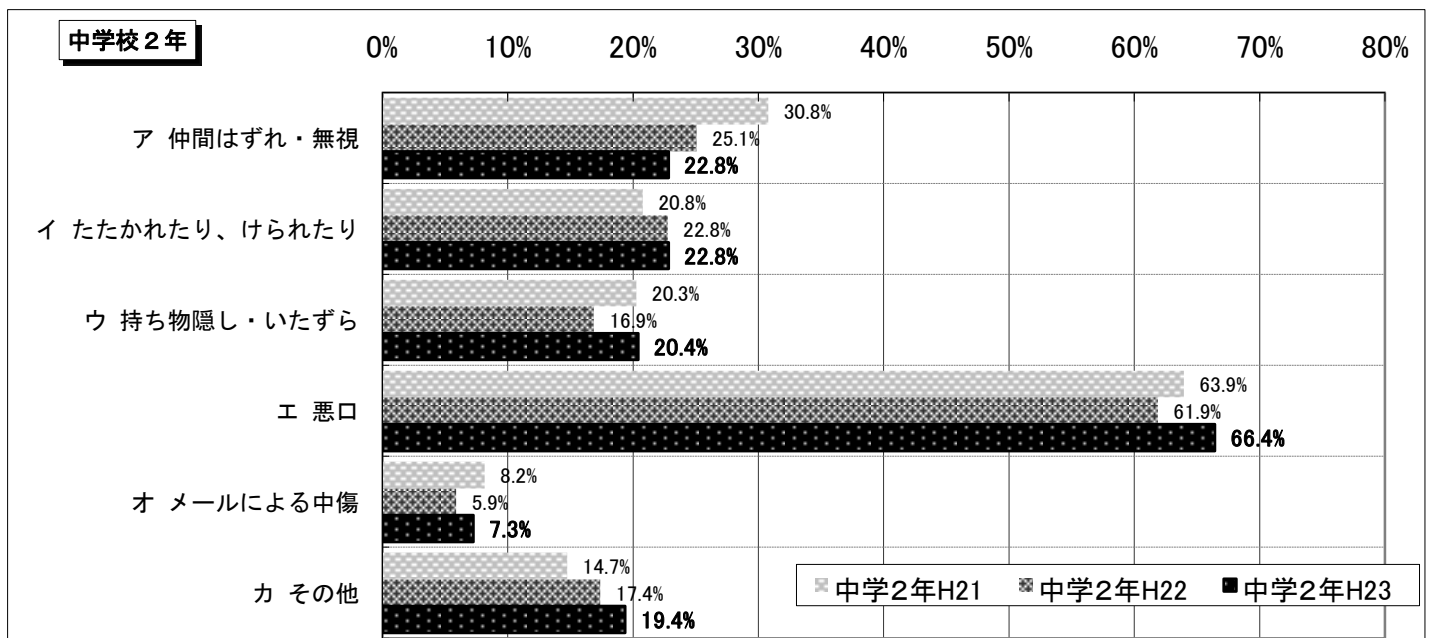
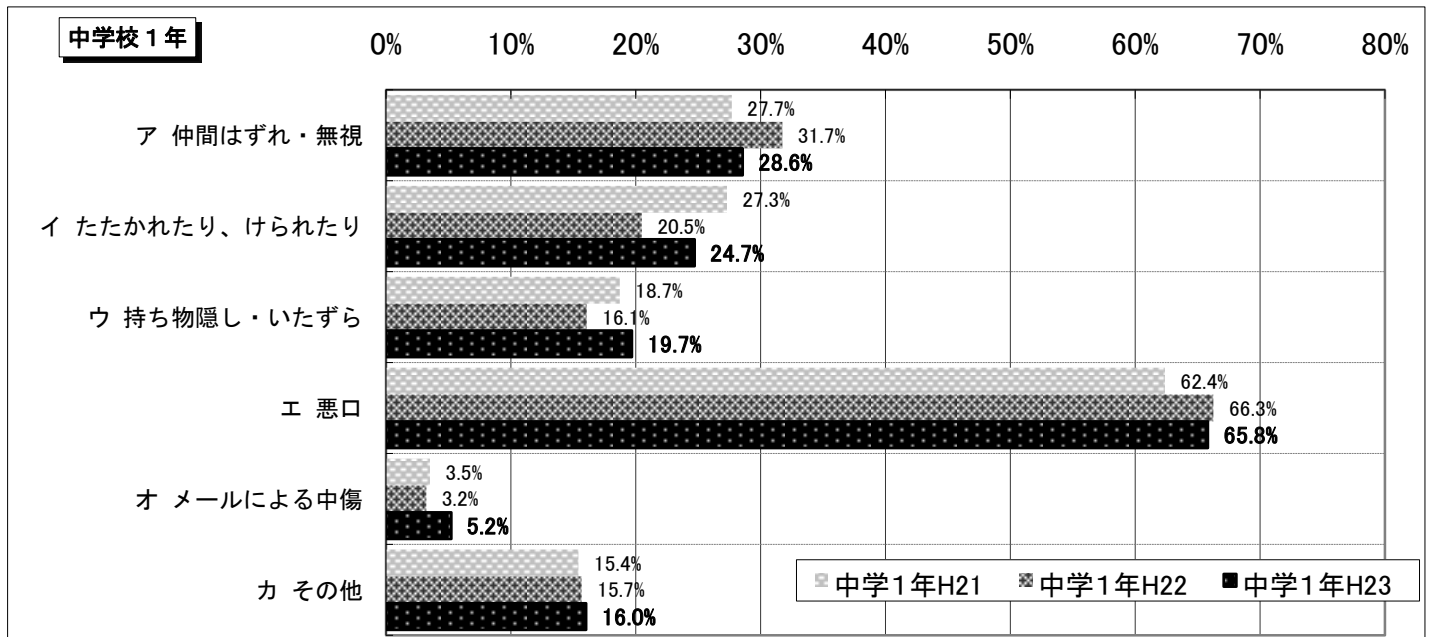
【考察】

- ・過去の調査結果と同様、どの校種においても「悪口」を言われるいじめが一番多い。
- ・「悪口」の次に多いのが、小学校では、「たたかれたり、けられたり」といった直接的なものであり、学年が進むにつれて、間接的で匿名性の高いものが増加する。
- ・メールによる中傷は、昨年と比べて減少した。情報モラルに関する指導の充実や「ネットパトロール」の効果とも考えられるが、被害が短期間に広がるなどの特徴があることを踏まえ、一層、未然防止や早期発見・早期対応の努力を継続していく必要があると考えられる。

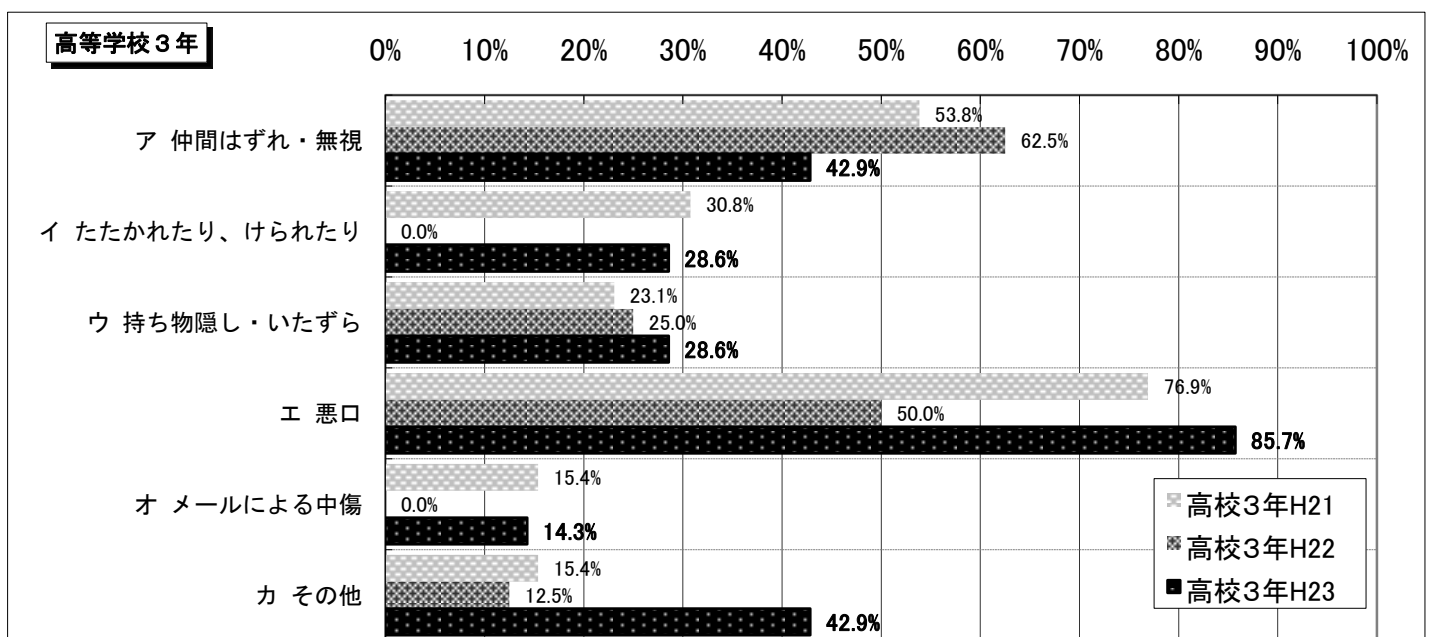
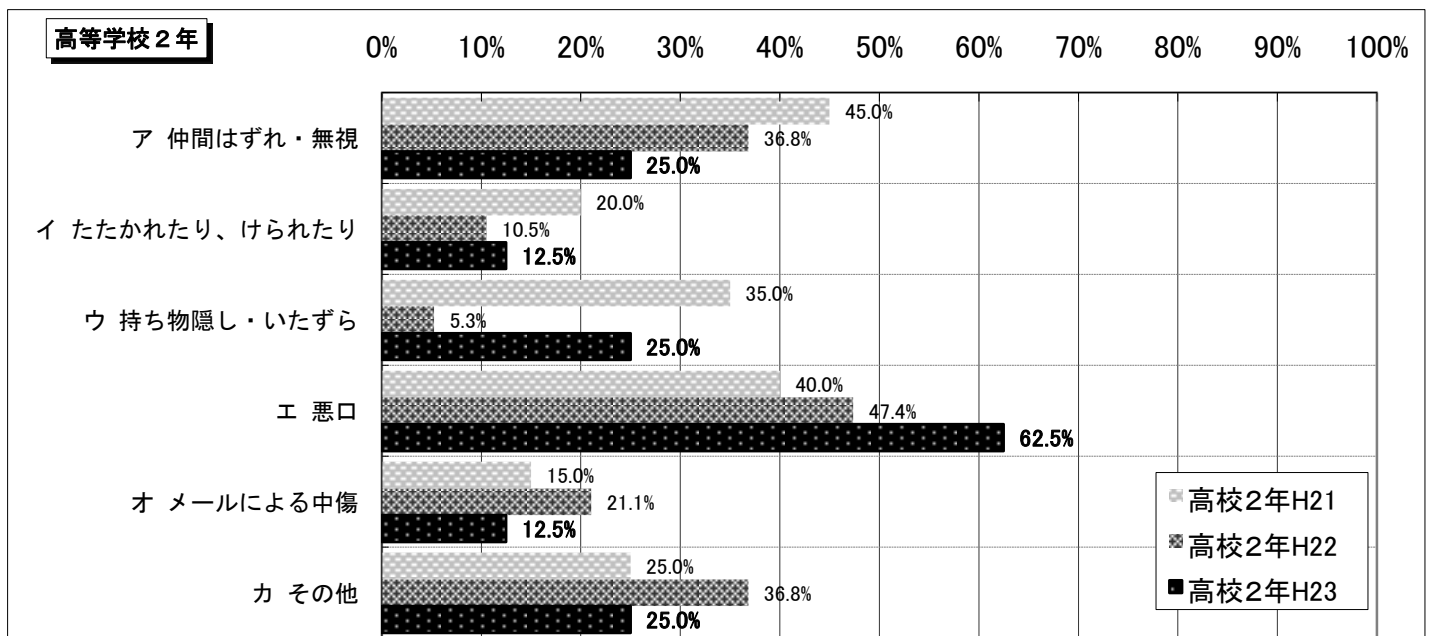
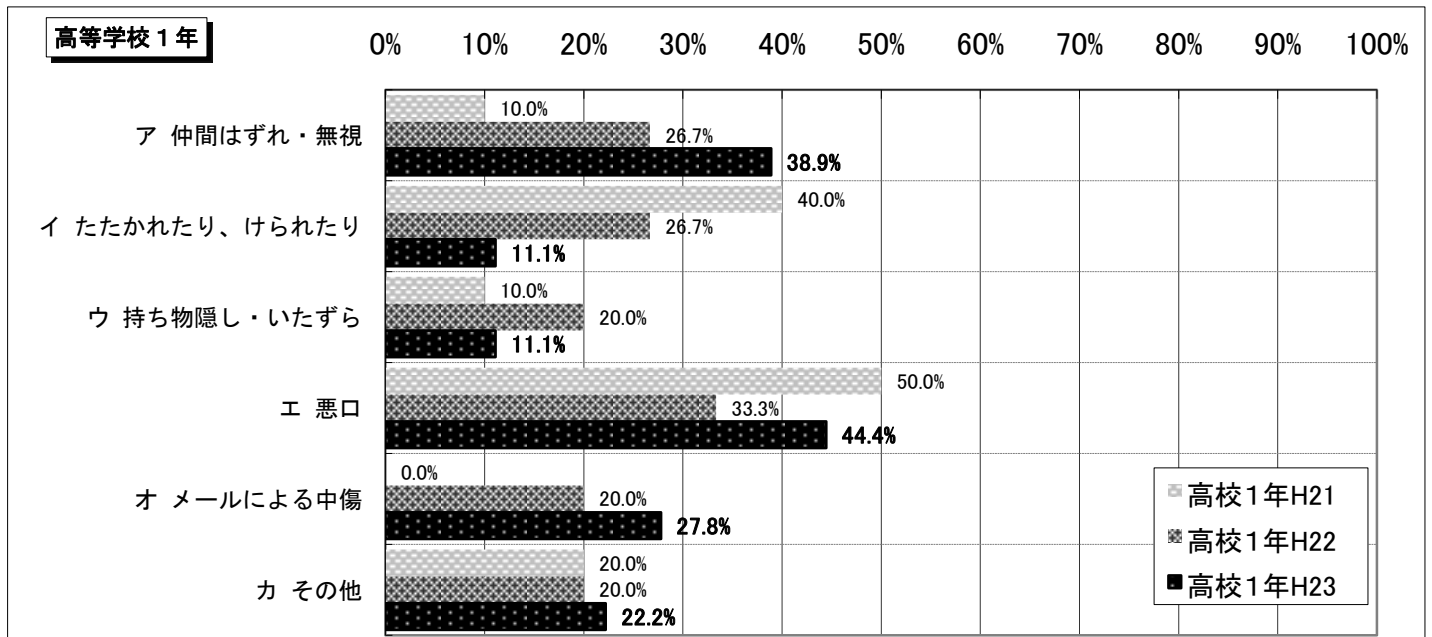
●いじめの内容<小学校低・中・高学年別>



●いじめの内容<中学校学年別>



●いじめの内容<高等学校学年別>



3 あなたは、自分がいじめられたら、誰かに相談しますか。

【設問3】 あなたは、自分がいじめられたら、誰かに相談しますか。

ア 相談する イ 相談しない

<校種別人数>

(人)

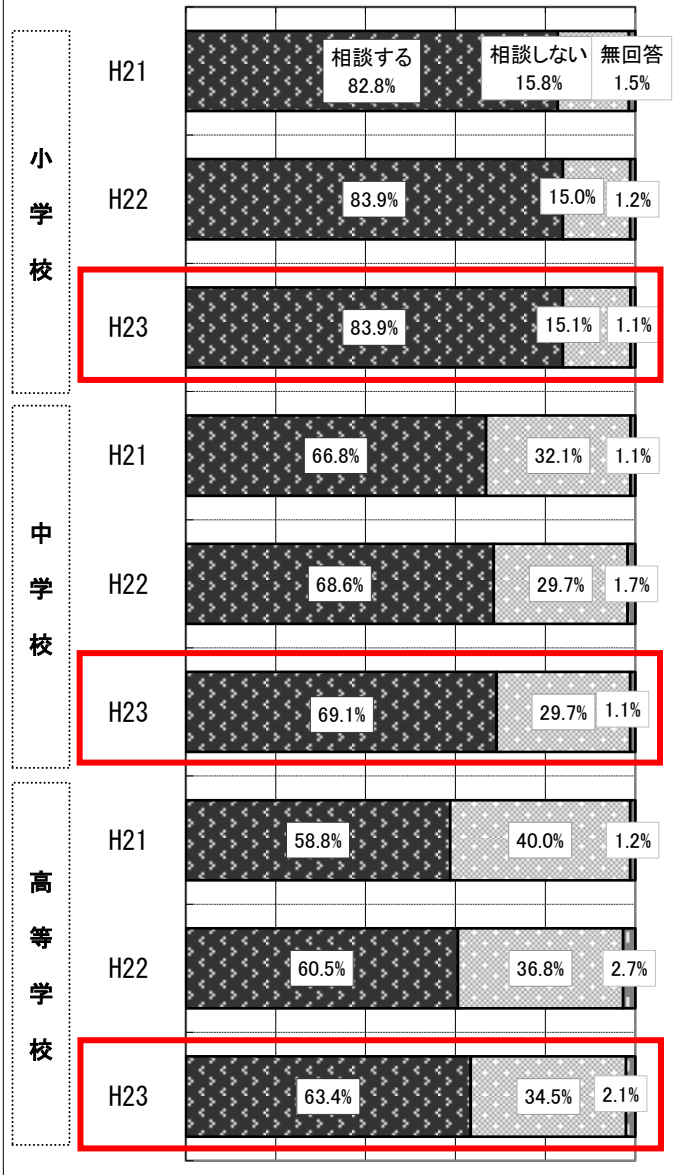
H21	小学校	中学校	高等学校	全体
相談する	74,449 (82.8%)	28,784 (66.8%)	3,899 (58.8%)	107,132 (76.7%)
相談しない	14,202 (15.8%)	13,851 (32.1%)	2,649 (40.0%)	30,702 (22.0%)
調査提出数	89,967 (—)	43,092 (—)	6,626 (—)	139,685 (—)

H22	小学校	中学校	高等学校	全体
相談する	75,534 (83.9%)	29,780 (68.6%)	4,186 (60.5%)	109,500 (78.0%)
相談しない	13,483 (15.0%)	12,916 (29.7%)	2,545 (36.8%)	28,944 (20.6%)
調査提出数	90,055 (—)	43,441 (—)	6,918 (—)	140,414 (—)

H23	小学校	中学校	高等学校	全体
相談する	74,819 (83.9%)	30,264 (69.1%)	4,550 (63.4%)	109,633 (78.2%)
相談しない	13,441 (15.1%)	13,014 (29.7%)	2,475 (34.5%)	28,930 (20.6%)
調査提出数	89,204 (—)	43,766 (—)	7,175 (—)	140,145 (—)

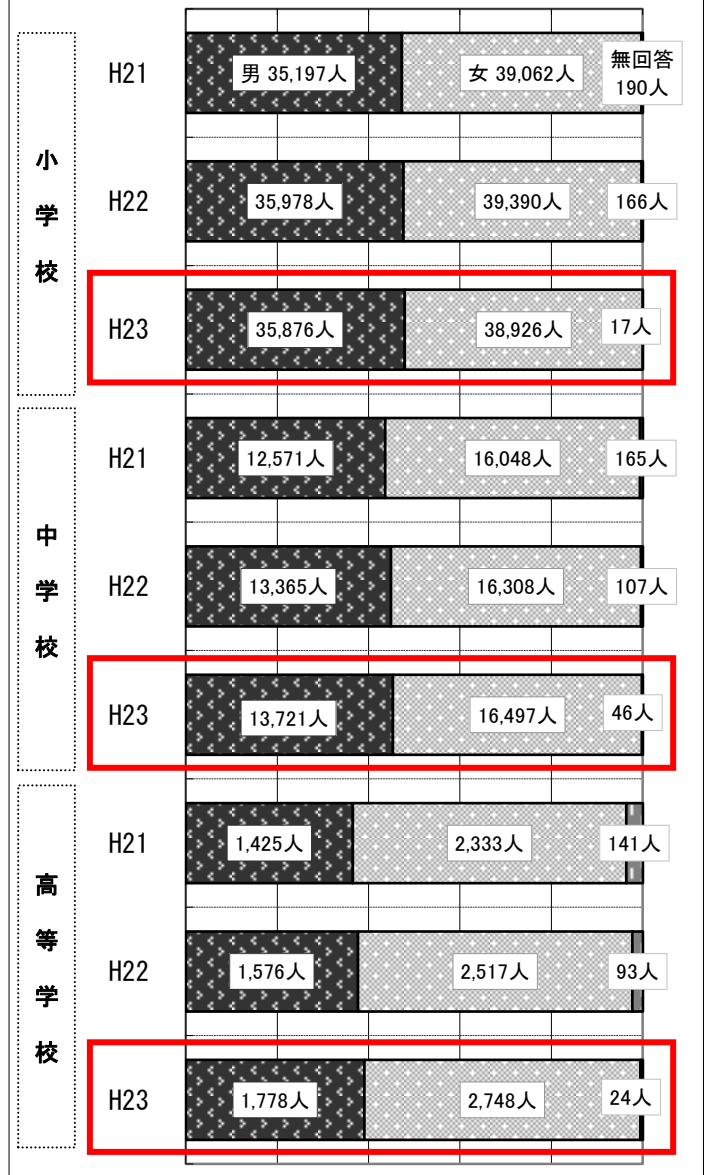
「相談する」「相談しない」の校種別割合

0% 20% 40% 60% 80% 100%



「相談する」と答えた児童生徒数の校種男女比

0% 20% 40% 60% 80% 100%

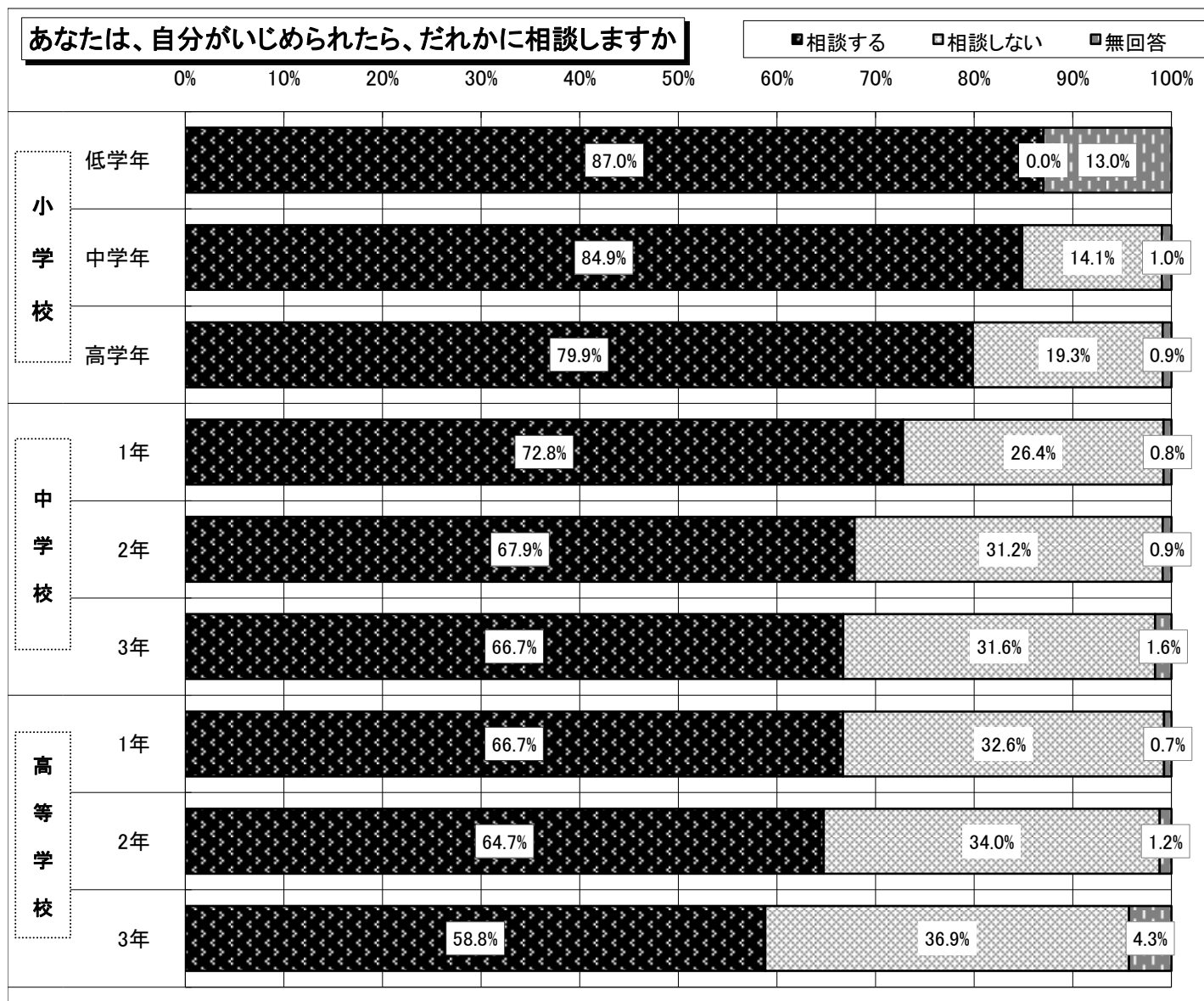


「相談する」と答えた生徒児童の学年別人数

学年別人数

(人)

	小学校						中学校			高等学校			全体
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
相談する	12,360	12,726	12,825	12,755	12,243	11,910	10,719	9,869	9,676	1,622	1,508	1,420	109,633
相談しない	1,527	1,827	2,017	2,246	2,633	3,191	3,888	4,538	4,588	792	793	890	28,930
調査提出数	14,059	14,769	15,012	15,123	14,978	15,263	14,726	14,537	14,503	2,432	2,329	2,414	140,145
「相談する」割合	87.9%	86.2%	85.4%	84.3%	81.7%	78.0%	72.8%	67.9%	66.7%	66.7%	64.7%	58.8%	78.2%



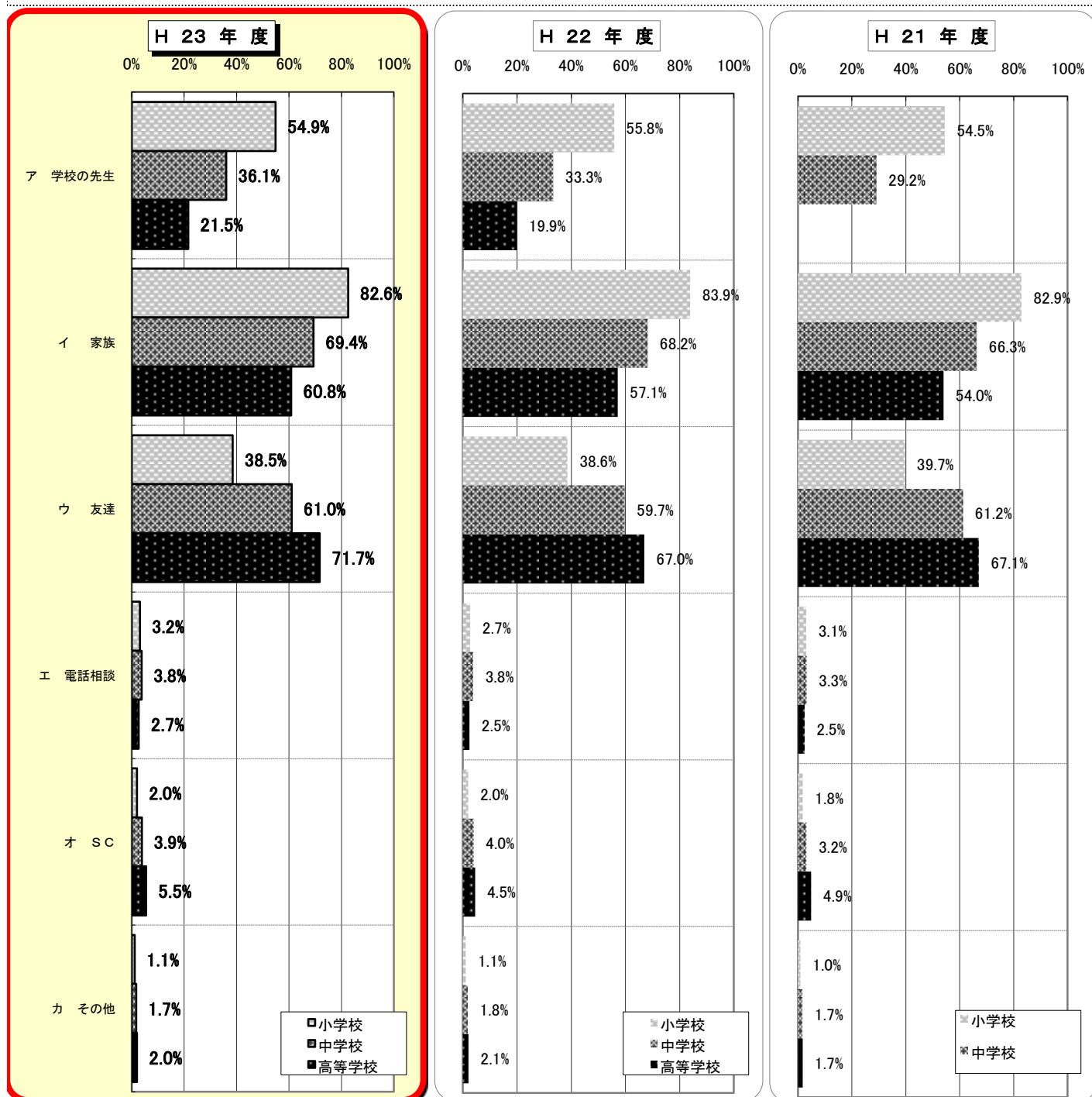
【考察】

- ・「相談する」と回答した割合は、小学校低学年が87.0%と最も高く、これまでの調査同様、学年が進むにつれてその割合は下がる傾向が見られる。
- ・一方、いじめられても「相談しない」と回答した割合が、中学校全体で29.7%、高等学校全体で34.5%となっている。これまでの調査より減少しているものの、学年が進み思春期を迎えると、悩みを抱え込む(他者への期待が低くなる)傾向に変わりはない。
- ・こうした傾向を踏まえ、いじめの早期発見・早期対応に向けては、周りにいる大人が子どものサインを少しでも早くとらえるよう努めるとともに、いつでも誰でも気軽に相談できる体制の充実を図ることが重要である。

4 相談すると答えた人に聞きます。だれに相談しますか。

【設問4】 設問3で「ア 相談する」と答えた人は、だれに相談しますか。（複数回答）

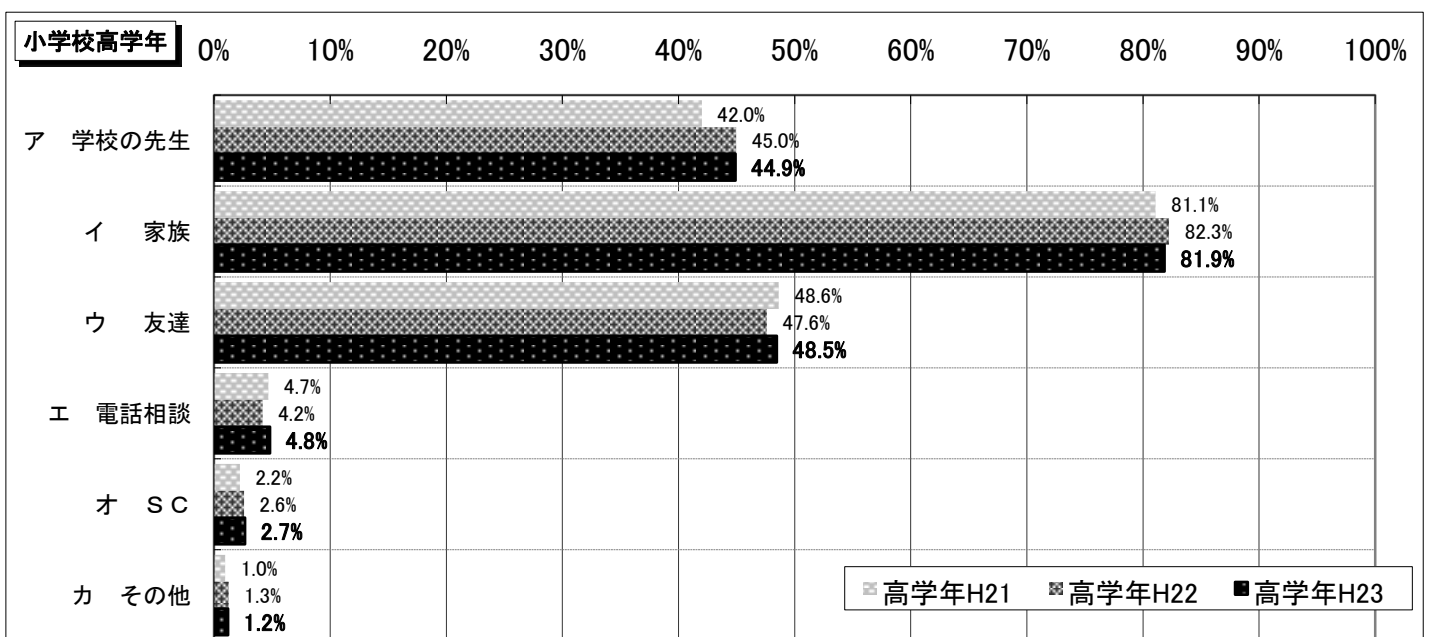
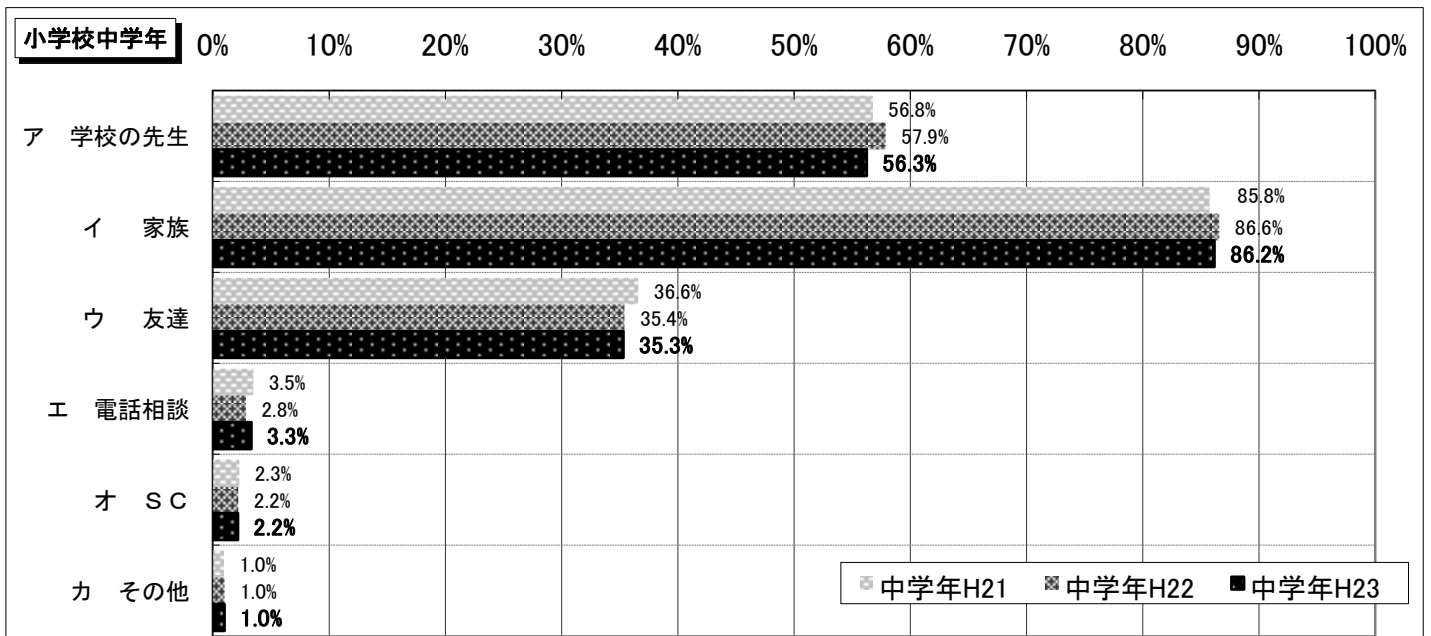
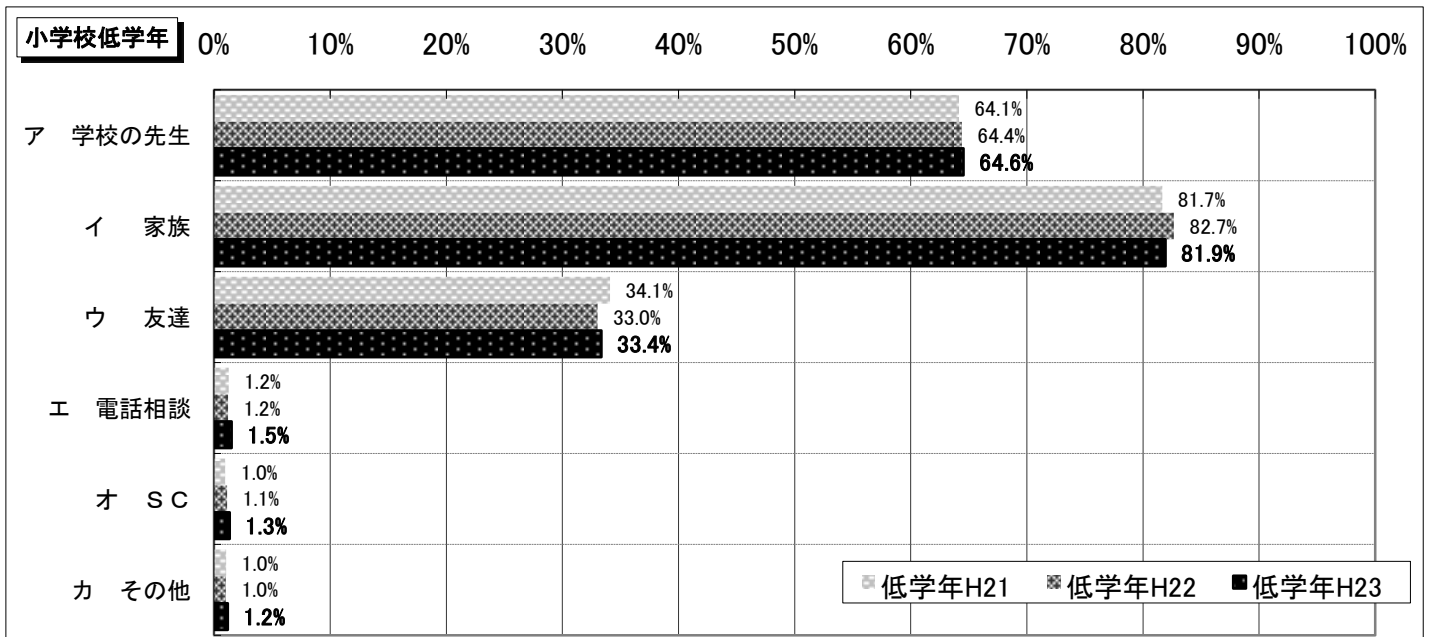
ア 学校の先生 イ 家族 ウ 友達 エ 電話相談
オ スクールカウンセラー カ その他



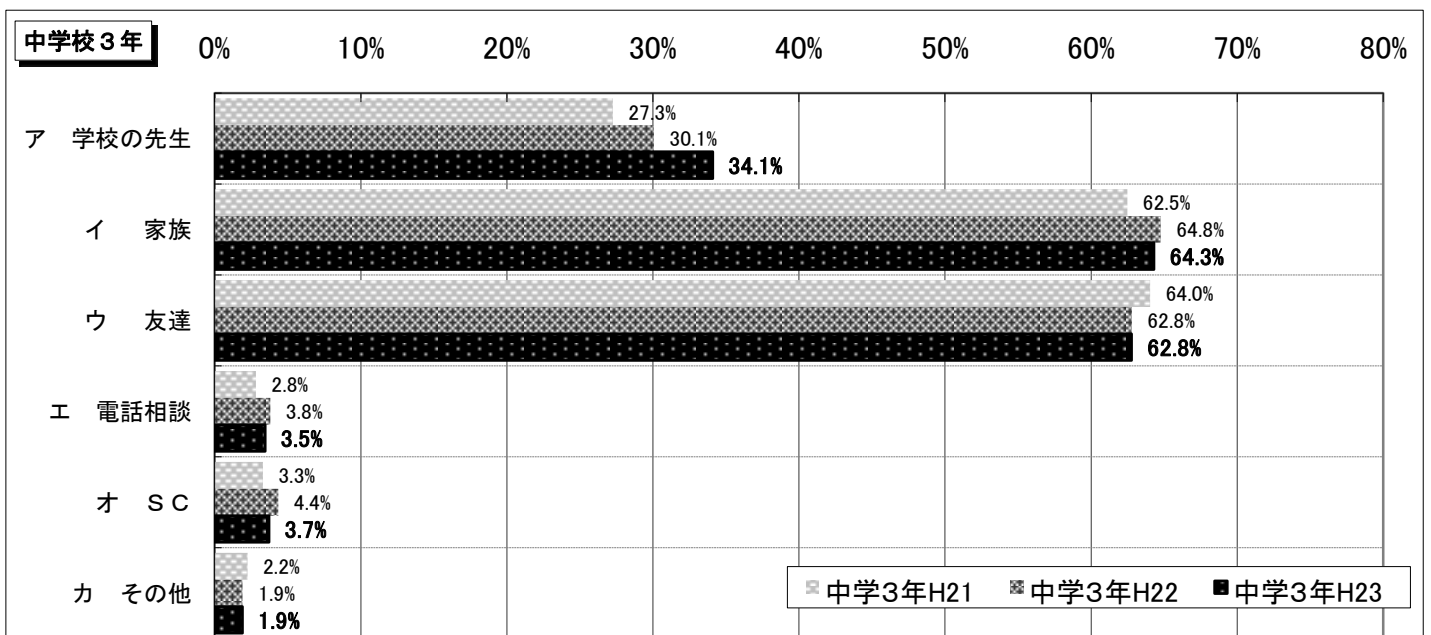
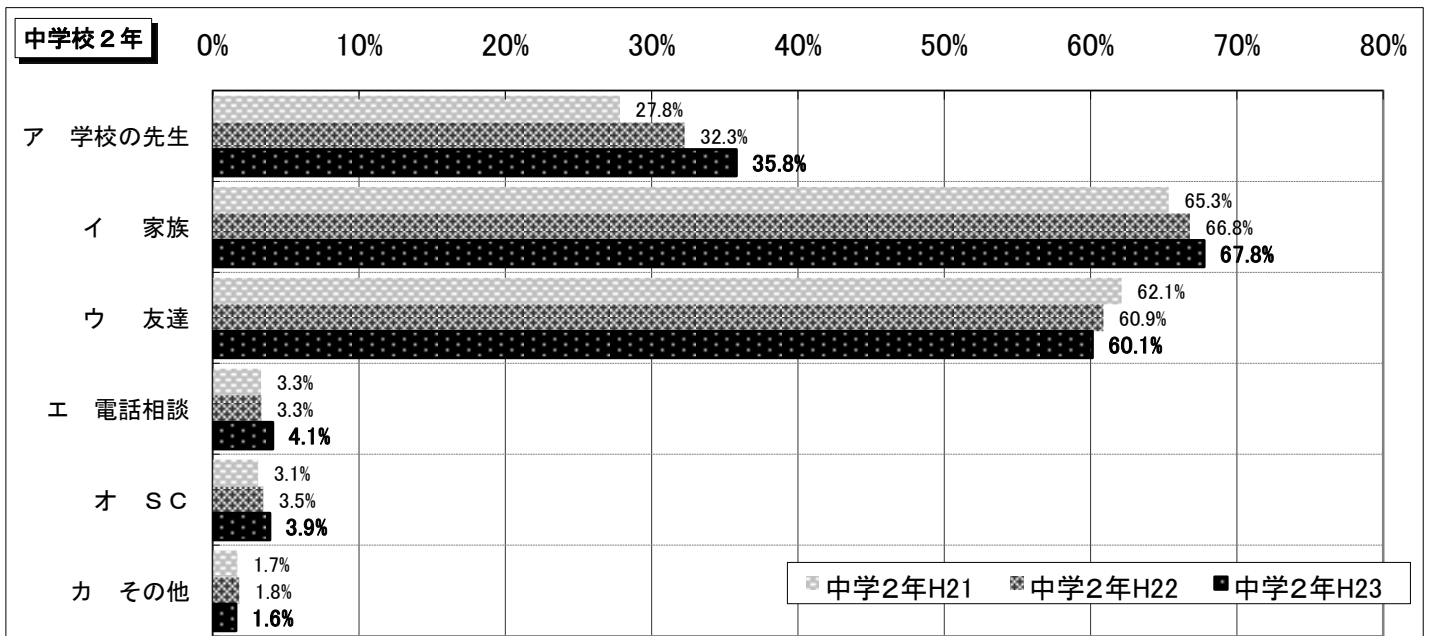
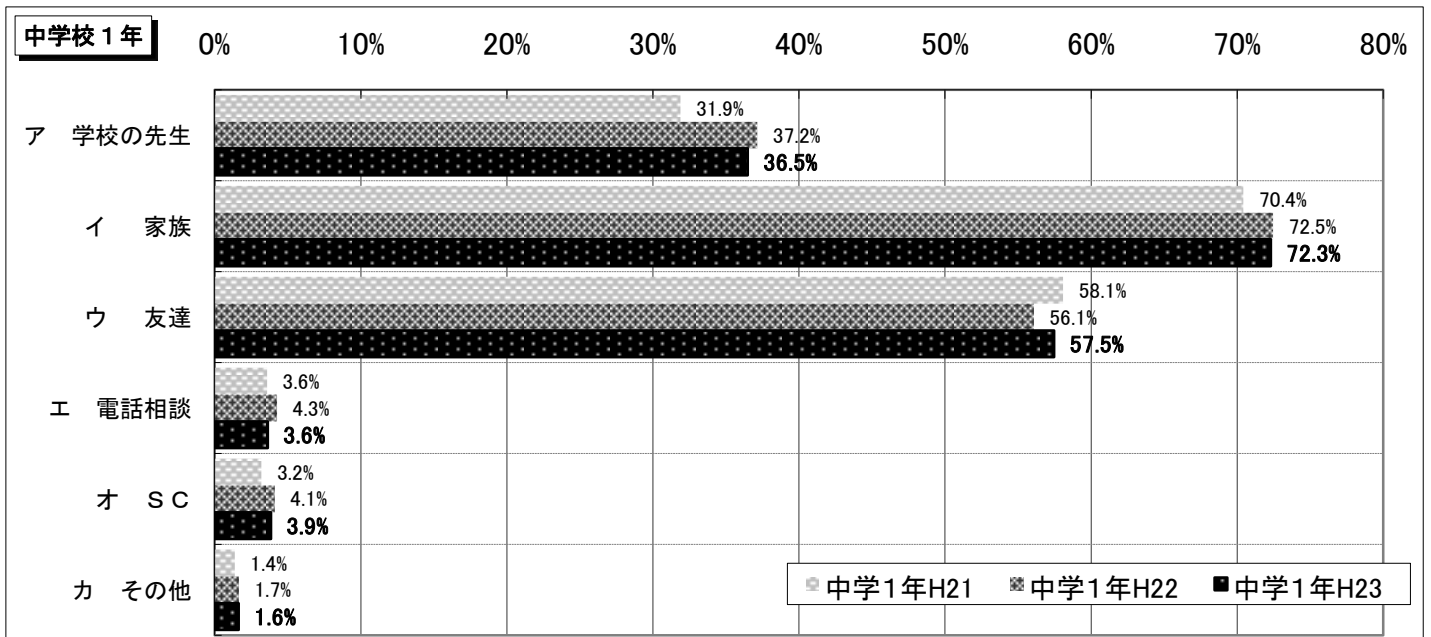
【考察】

- ・全体的には、これまでと同様の傾向であり、相談する相手としては、小中高とも「家族」「友達」「学校の先生」が高い割合となっている。学年が進むにつれて、相談相手が「家族」や「学校の先生」といった大人から「友達」へと移っていく傾向が見られる。
- ・各校種とも「家族」に相談する割合が高い。日頃から、学校が保護者と情報交換を行うなど、家庭との連携を密にすることが重要である。
- ・学校では、子どもたちの悩みを受け止める相談体制の充実を図るとともに、教師が子どもたちとのふれあいを通して、互いの信頼関係を高めていくことが一層大切である。また、子どもの友達関係の把握にも努め、その変化などを細やかにとらえていくことが大切である。

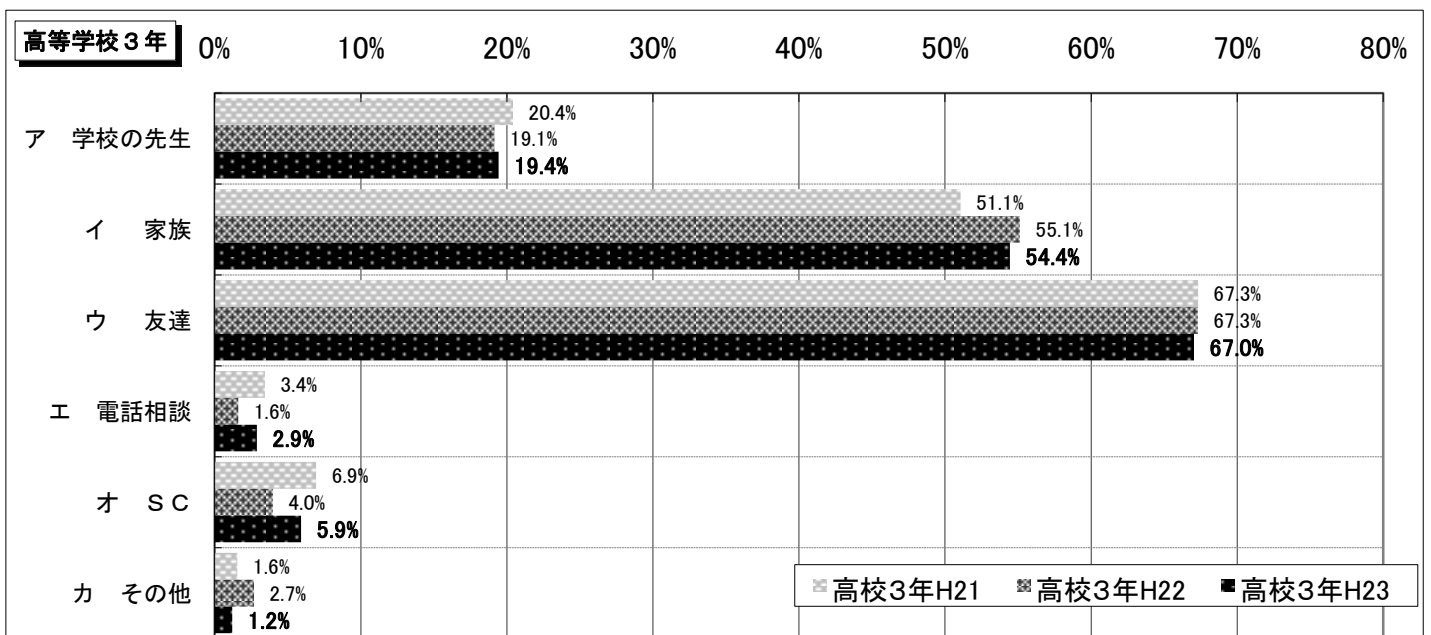
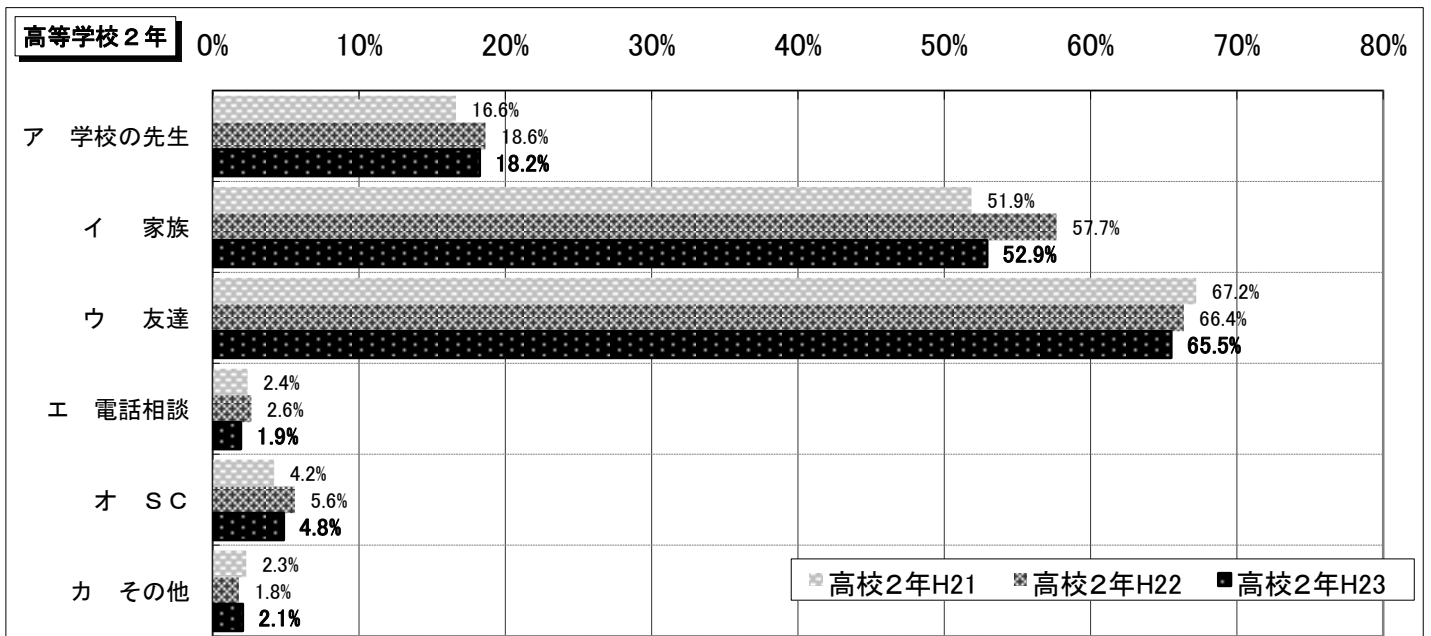
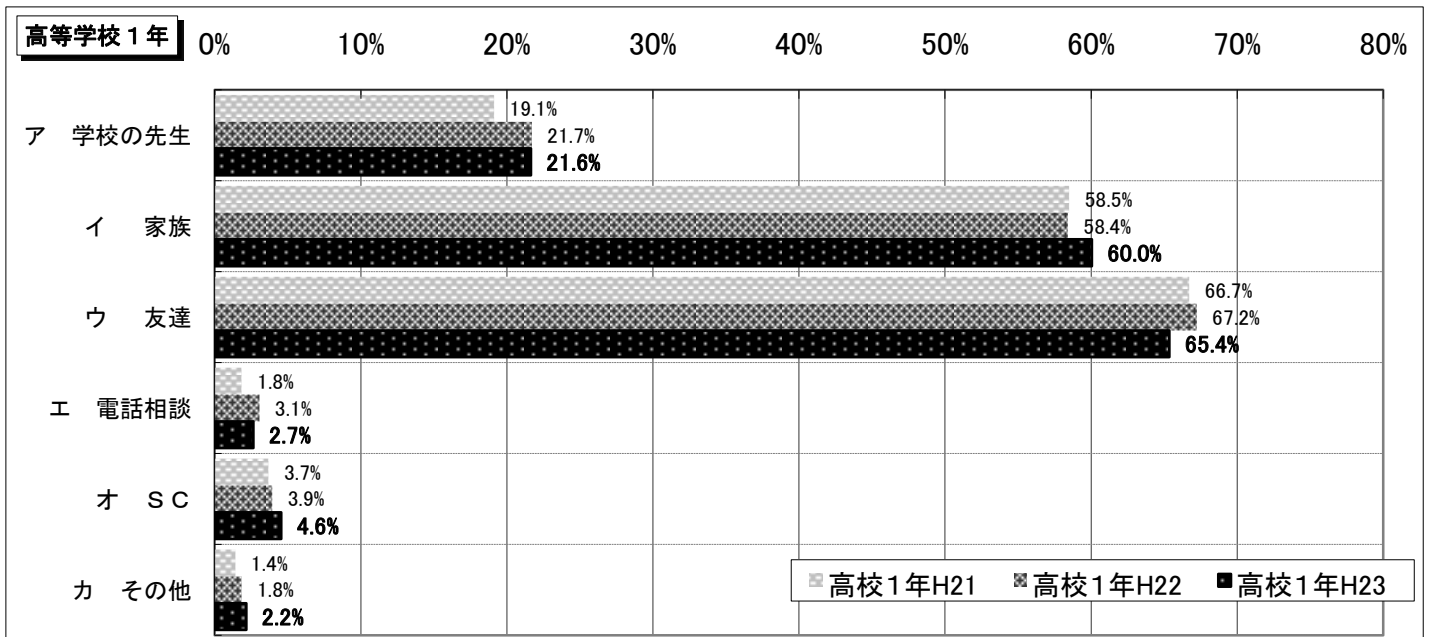
●相談する相手＜小学校低・中・高学年別＞



●相談する相手<中学校学年別>



●相談する相手<高等学校学年別>



5 いじめのことで電話相談できる場所がありますが、そのことを知っていましたか。

【設問5】 札幌市には、いじめのことで電話相談できる場所がありますが、そのことを知っていましたか。

ア 知っていた イ 知らない

＜校種別人数＞

(人)

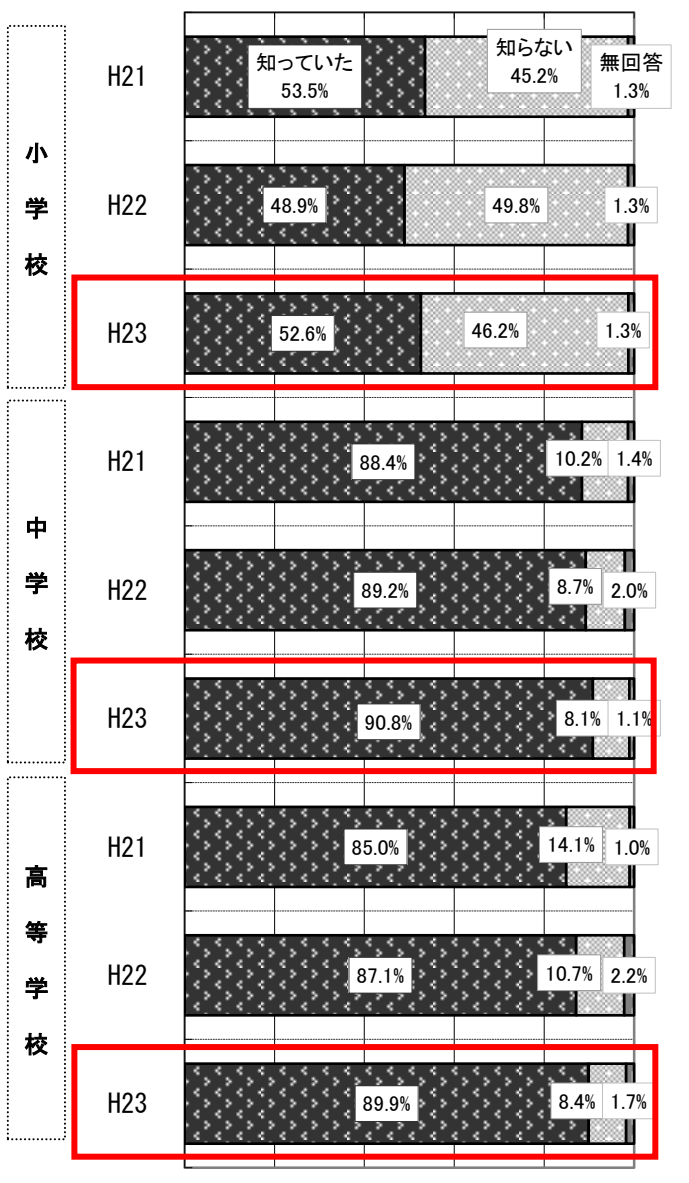
H21	小学校	中学校	高等学校	全体
知っていた	48,121 (53.5%)	38,111 (88.4%)	5,629 (85.0%)	91,861 (65.8%)
知らない	40,671 (45.2%)	4,395 (10.2%)	934 (14.1%)	46,000 (32.9%)
調査提出数	89,967 (-)	43,092 (-)	6,626 (-)	139,685 (-)

H22	小学校	中学校	高等学校	全体
知っていた	44,046 (48.9%)	38,767 (89.2%)	6,029 (87.1%)	88,842 (63.3%)
知らない	44,834 (49.8%)	3,785 (8.7%)	737 (10.7%)	49,356 (35.2%)
調査提出数	90,055 (-)	43,441 (-)	6,918 (-)	140,414 (-)

H23	小学校	中学校	高等学校	全体
知っていた	46,889 (52.6%)	39,746 (90.8%)	6,450 (89.9%)	93,085 (66.4%)
知らない	41,180 (46.2%)	3,555 (8.1%)	600 (8.4%)	45,335 (32.3%)
調査提出数	89,204 (-)	43,766 (-)	7,175 (-)	140,145 (-)

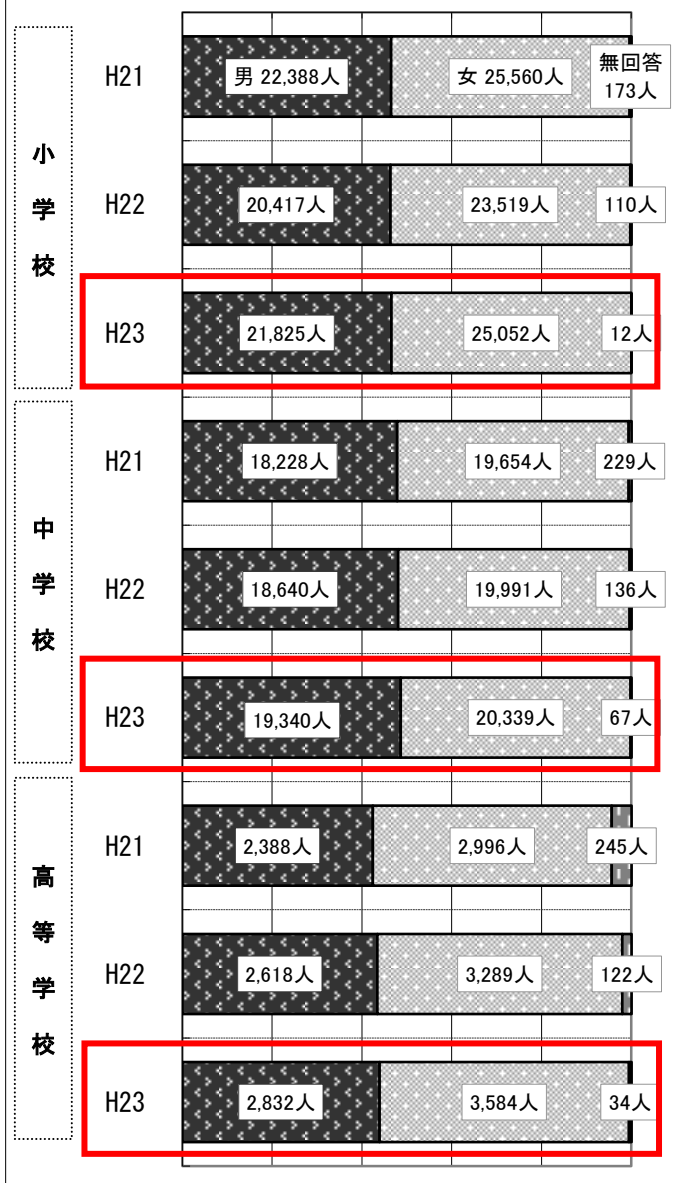
「知っていた」「知らない」の校種別割合

0% 20% 40% 60% 80% 100%



「知っていた」と答えた児童生徒数の校種男女比

0% 20% 40% 60% 80% 100%

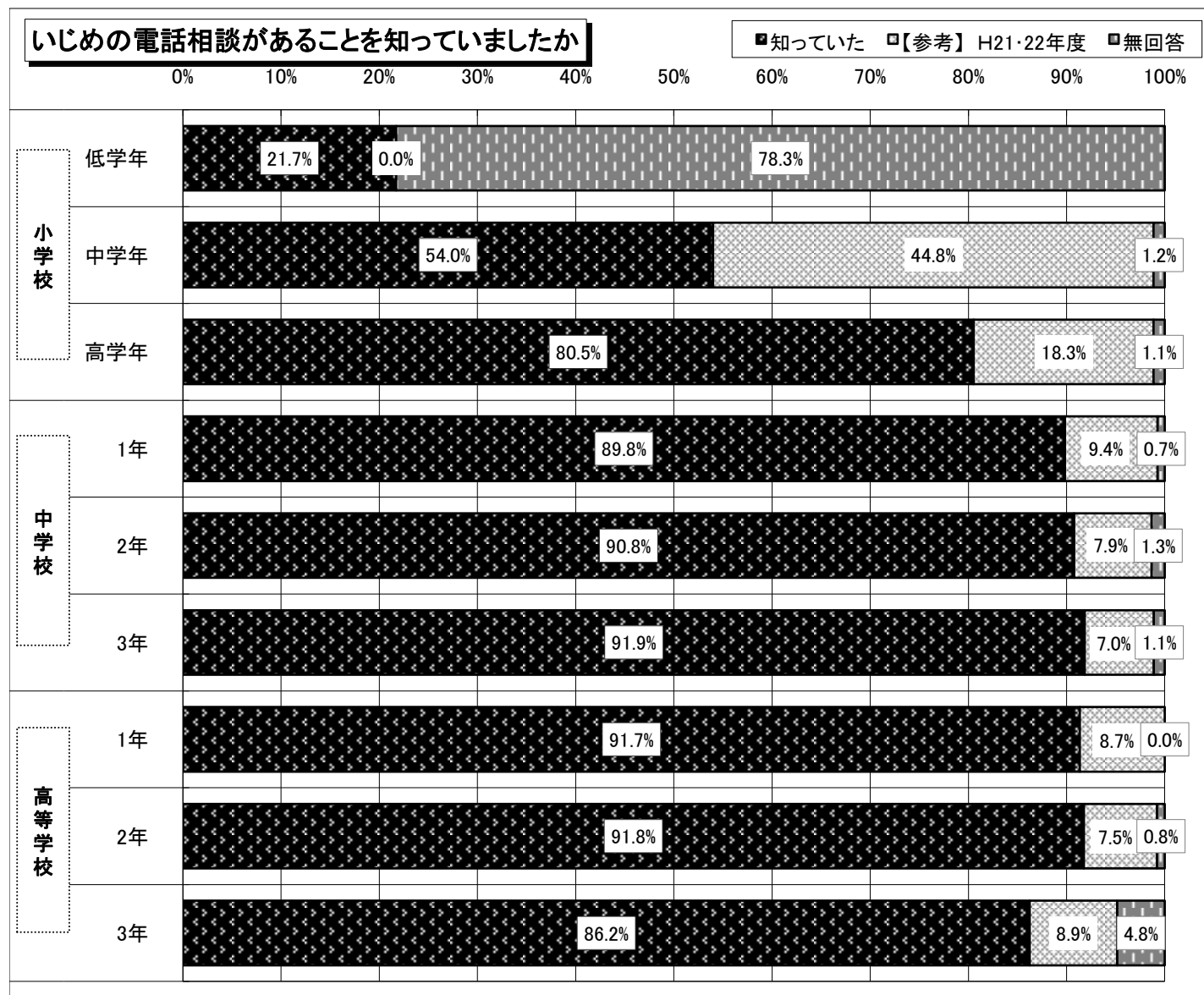


「知っていた」と答えた生徒児童の学年別人数

学年別人数

(人)

	小学校						中学校			高等学校			全体
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
知っていた	2,249	4,010	6,685	9,590	11,564	12,791	13,228	13,196	13,322	2,231	2,137	2,082	93,085
知らない	11,565	10,559	8,135	5,378	3,309	2,234	1,390	1,146	1,019	211	174	215	45,335
調査提出数	14,059	14,769	15,012	15,123	14,978	15,263	14,726	14,537	14,503	2,432	2,329	2,414	140,145
「知っていた」割合	16.0%	27.2%	44.5%	63.4%	77.2%	83.8%	89.8%	90.8%	91.9%	91.7%	91.8%	86.2%	66.4%



【考察】

- ・「知っていた」と回答した中・高生は8割を超え、特に中学生においては9割近くの生徒が知っていたと回答している。相談電話番号が記載されているポスターを掲示するなど、相談窓口の啓発に効果が表れた結果であると思われる。
- ・小学校低学年の児童は、自分自身の意思でいじめの相談に電話相談を利用する意識があまり高くないとも考えられるが、中学校以上にも「知らない」と回答した生徒がいることから、今後も適宜、学校を通じて電話相談窓口について周知を図っていく必要がある。

6 あなたは、最近いじめられている人を見たり聞いたりしたことがありますか。

【設問6】 あなたは、最近いじめられている人を見たり聞いたりしたことがありますか。
 ア ある イ ない

<校種別人数>

(人)

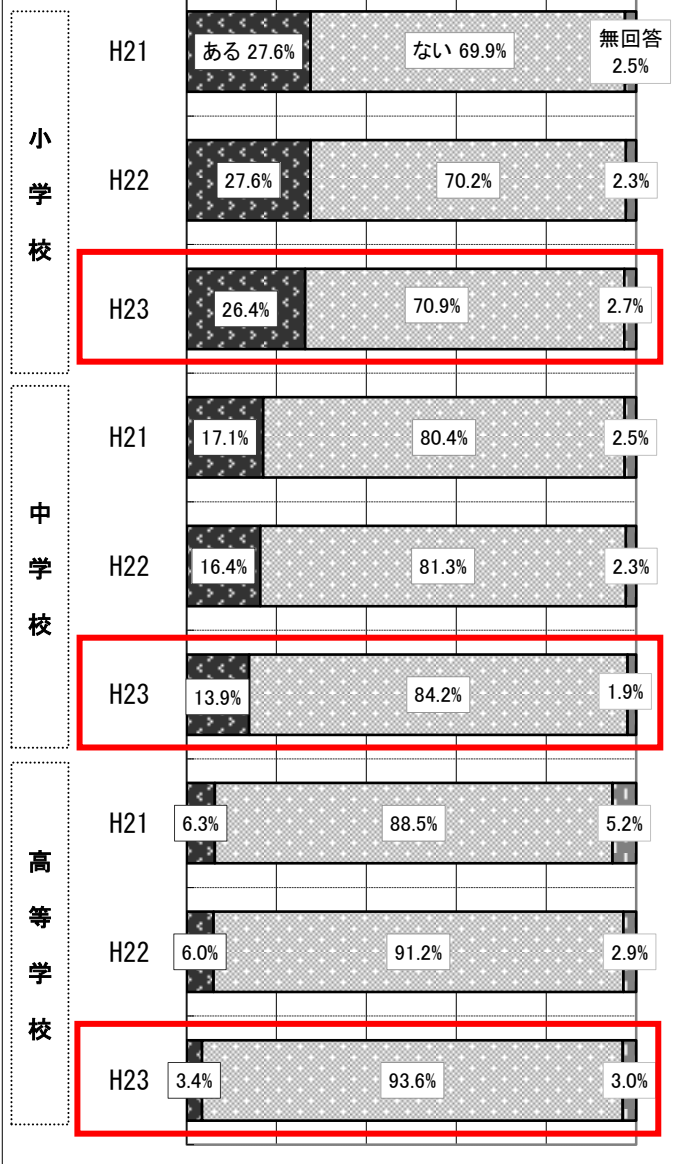
H21	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	24,843 (27.6%)	7,362 (17.1%)	416 (6.3%)	32,621 (23.4%)
ない	62,870 (69.9%)	34,645 (80.4%)	5,841 (88.5%)	103,356 (74.0%)
調査提出数	89,967 (—)	43,092 (—)	6,603 (—)	139,662 (—)

H22	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	24,829 (27.6%)	7,125 (16.4%)	414 (6.0%)	32,368 (23.1%)
ない	63,199 (70.2%)	35,325 (81.3%)	6,306 (91.2%)	104,830 (74.7%)
調査提出数	90,055 (—)	43,441 (—)	6,918 (—)	140,414 (—)

H23	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	23,556 (26.4%)	6,078 (13.9%)	246 (3.4%)	29,880 (21.3%)
ない	63,282 (70.9%)	36,850 (84.2%)	6,715 (93.6%)	106,847 (76.2%)
調査提出数	89,204 (—)	43,766 (—)	7,175 (—)	140,145 (—)

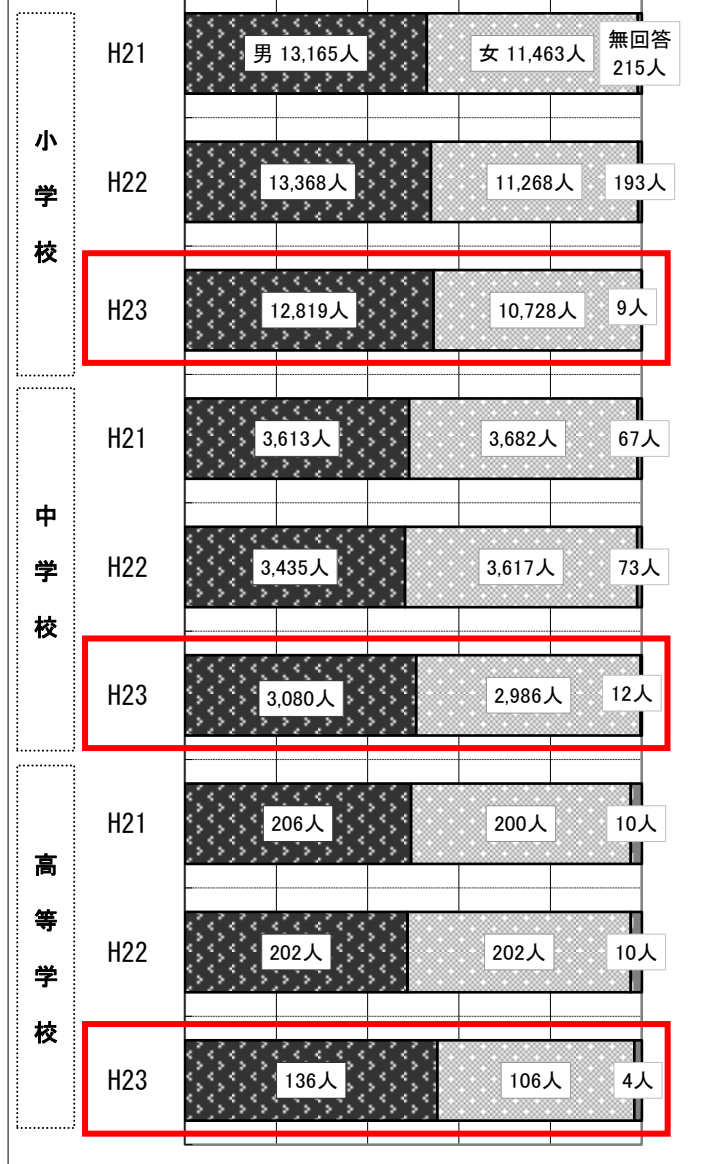
「ある」「ない」の校種別割合

0% 20% 40% 60% 80% 100%



「ある」と答えた児童生徒数の校種男女比

0% 20% 40% 60% 80% 100%



「ある」と答えた生徒児童の学年別人数

学年別人数

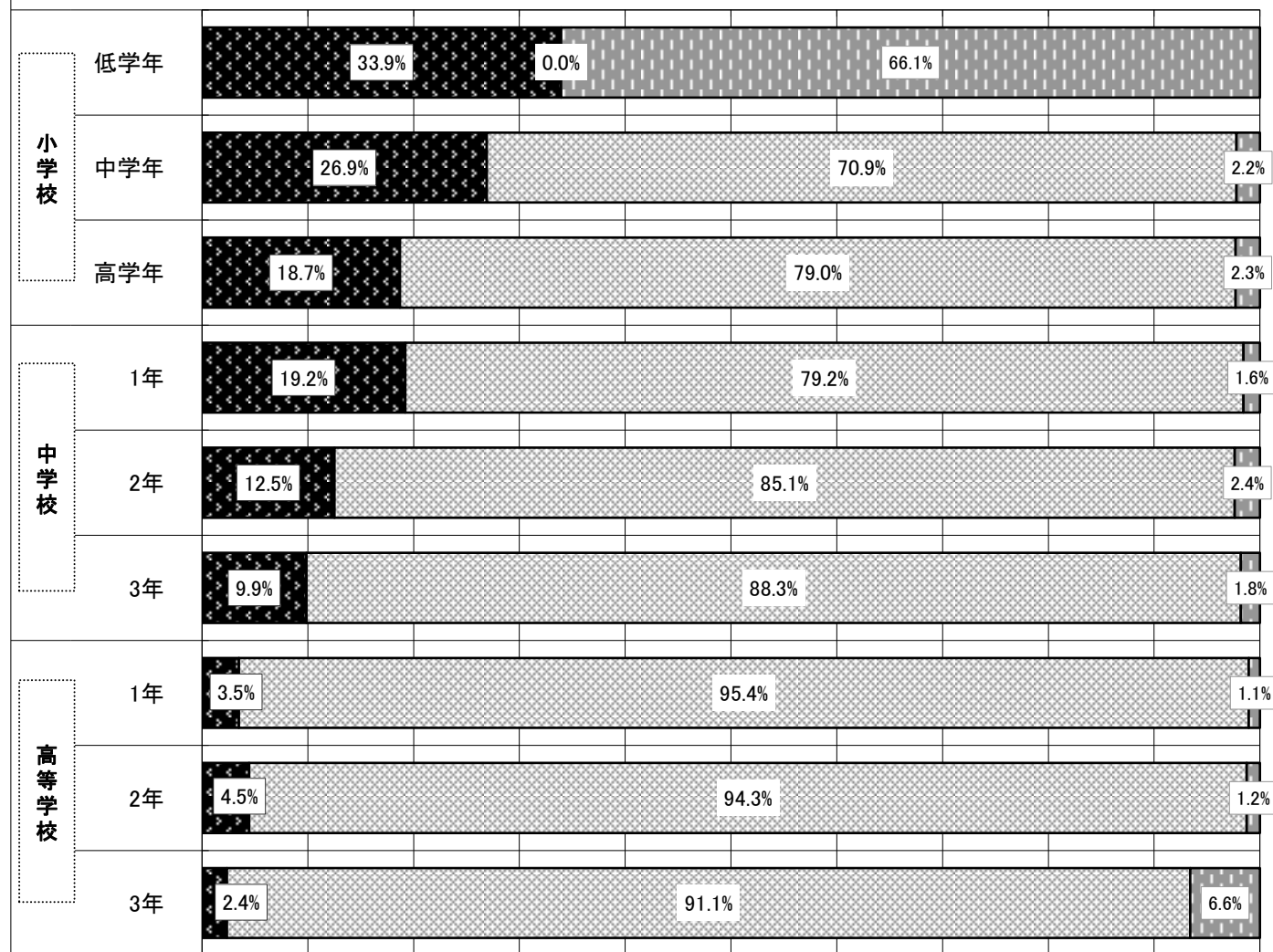
(人)

	小学校						中学校			高等学校			全体
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
ある	4,692	5,093	4,423	3,688	3,076	2,584	2,828	1,820	1,430	85	104	57	29,880
ない	8,823	9,221	10,248	11,107	11,598	12,285	11,668	12,371	12,811	2,321	2,196	2,198	106,847
調査提出数	14,059	14,769	15,012	15,123	14,978	15,263	14,726	14,537	14,503	2,432	2,329	2,414	140,145
「ある」割合	33.4%	34.5%	29.5%	24.4%	20.5%	16.9%	19.2%	12.5%	9.9%	3.5%	4.5%	2.4%	21.3%

あなたは、最近いじめられている人を見たり聞いたりしたことがありますか

■ある
□【参考】 H21・22年度

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



【考察】

- ・「ある」と回答した割合は、概ね学年が進むにつれて下がっており、これまでと同様の傾向が見られる。
- ・いじめは、暴力行為など他の問題行動と比べると発見しにくいという特徴がある。教師ができるだけ子どものサインを見逃さぬよう努力をしつつ、子どもたちからの情報にも耳を傾けるなど、多様な方法でいじめの早期発見や実態把握に努めていく必要がある。

7 いじめられている人を見たことがあると答えた人に聞きます。知っている人の悪口をインターネット上で見たことがありますか

【設問7】 設問6で「ア ある」と答えた人のうち、あなたが知っている人の悪口がインターネットに書きこまれているのを見たことがありますか。

ア ある イ ない

<校種別人数>

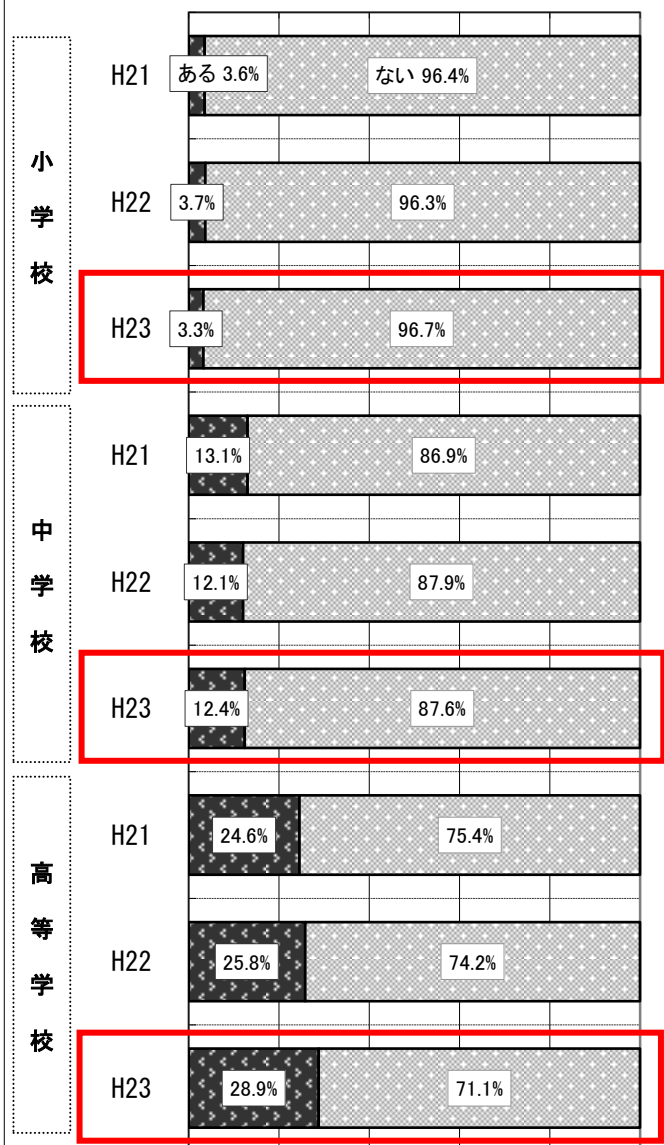
(人)

	小学校	中学校	高等学校	全体	
H21	ある	1,040 (3.6%)	1,169 (13.1%)	121 (24.6%)	2,330 (6.1%)
	ない	27,994 (96.4%)	7,773 (86.9%)	371 (75.4%)	36,138 (93.9%)
	調査提出数	29,034 (—)	8,942 (—)	492 (—)	38,468 (—)
H22	ある	1,127 (3.7%)	1,012 (12.1%)	127 (25.8%)	2,266 (5.8%)
	ない	29,008 (96.3%)	7,359 (87.9%)	365 (74.2%)	36,732 (94.2%)
	調査提出数	30,135 (—)	8,371 (—)	492 (—)	38,998 (—)
H23	ある	906 (3.3%)	920 (12.4%)	86 (28.9%)	1,912 (5.5%)
	ない	26,461 (96.7%)	6,487 (87.6%)	212 (71.1%)	33,160 (94.5%)
	調査提出数	27,367 (—)	7,407 (—)	298 (—)	35,072 (—)

※H21、H22、H23ともに設問6で「ある」と回答していない児童生徒が、設問7で回答した数が多く見られたので、設問6の回答数に依らずに集計した。

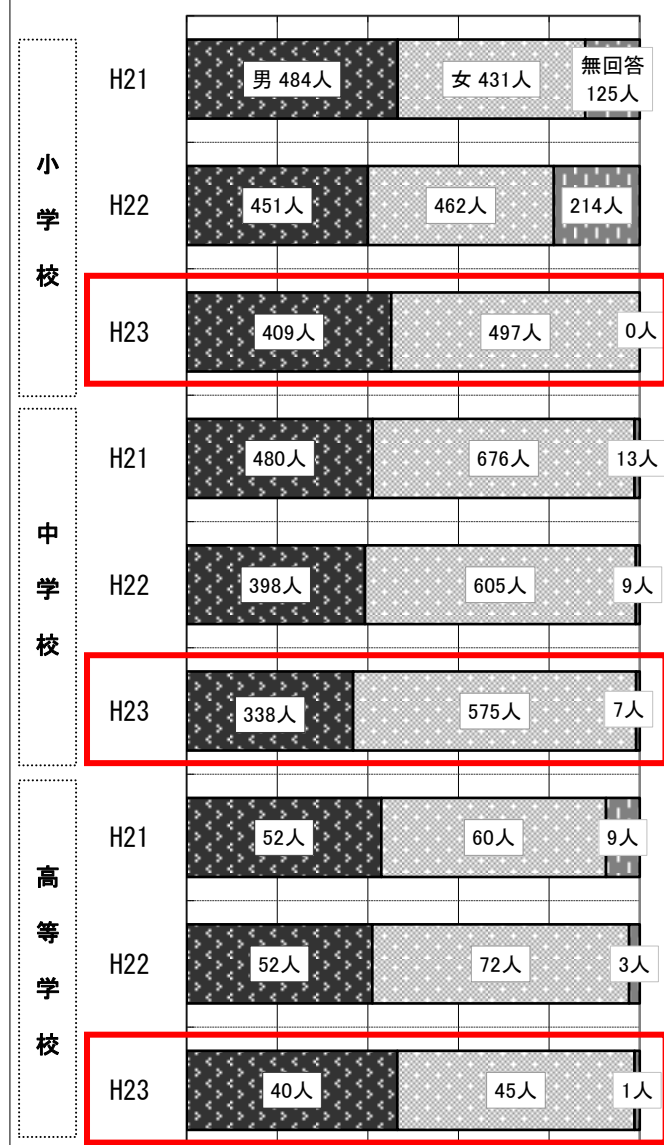
「ある」「ない」の校種別割合

0% 20% 40% 60% 80% 100%



「ある」と答えた児童生徒数の校種男女比

0% 20% 40% 60% 80% 100%



「ある」と答えた生徒児童の学年別人数

学年別人数

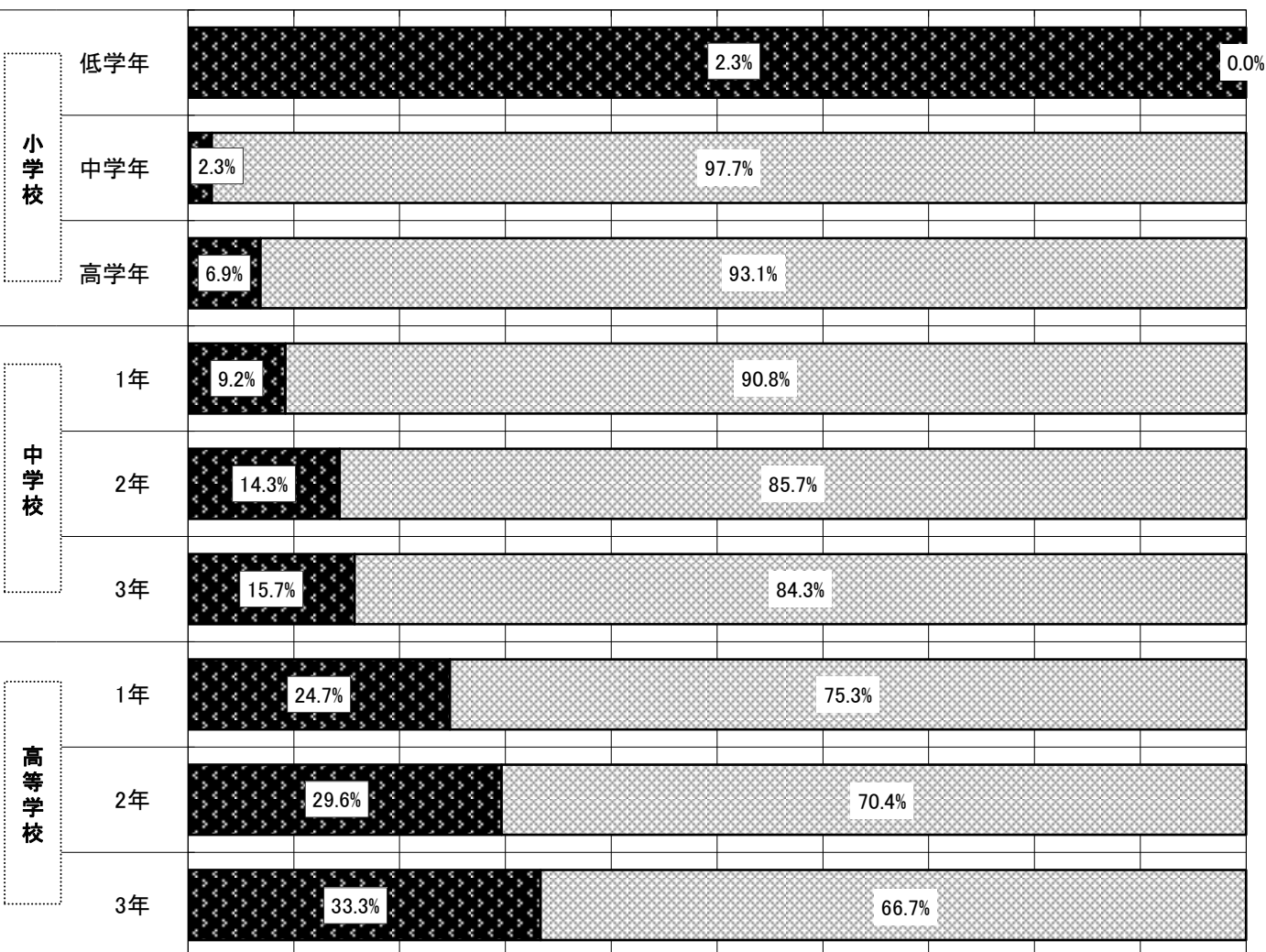
(人)

	小学校						中学校			高等学校			全体
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
ある	127	142	99	117	219	202	301	336	283	24	40	22	1,912
ない	5,484	5,883	5,054	4,321	3,114	2,605	2,967	2,006	1,514	73	95	44	33,160
調査提出内数	5,611	6,025	5,153	4,438	3,333	2,807	3,268	2,342	1,797	97	135	66	35,072
「ある」割合	2.3%	2.4%	1.9%	2.6%	6.6%	7.2%	9.2%	14.3%	15.7%	24.7%	29.6%	33.3%	5.5%

知っている人の悪口をインターネット上で見たことがありますか。

■ある □【参考】 H21・22年度

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

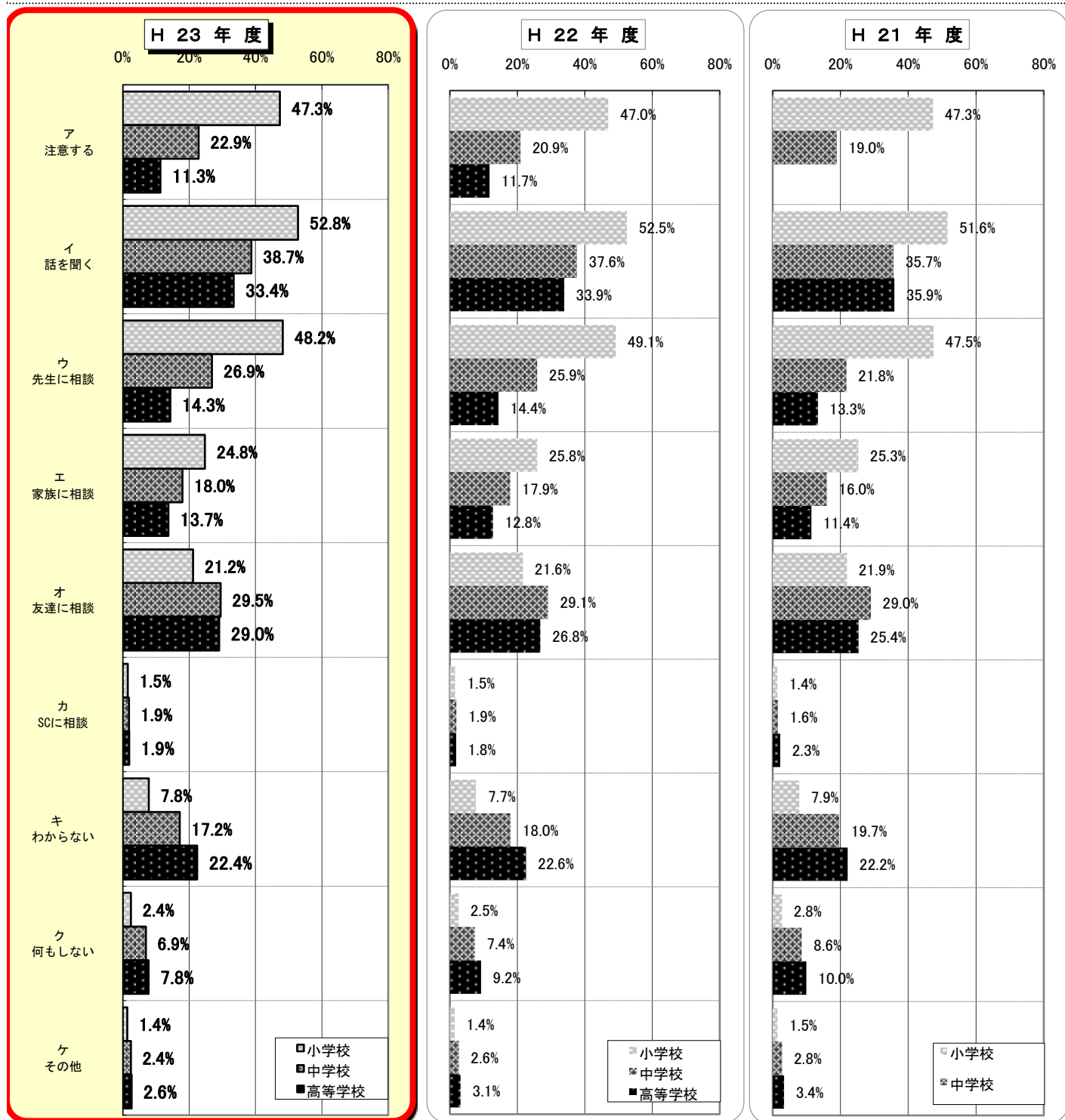


【考察】

- ・悪口がインターネット上に書き込まれているのを見たことがあると回答した児童生徒の総数は、昨年よりもやや減少した。インターネットをめぐる状況は変化が激しいため、ネット上のいじめの未然防止の指導や早期発見・早期対応については、状況に対応しながらさらに継続していく必要がある。
- ・ネットパトロールによって不適切な書き込みを見出し、指導・対応を進める一方で、未然防止のためには、インターネットを利用する上でのモラルの指導が重要である。
- ・携帯電話やパソコンの使用の低年齢化が進んでおり小学校からの指導が一層必要になっていると考えられる。

8 あなたは、だれかがいじめられていると知ったらどうしますか。

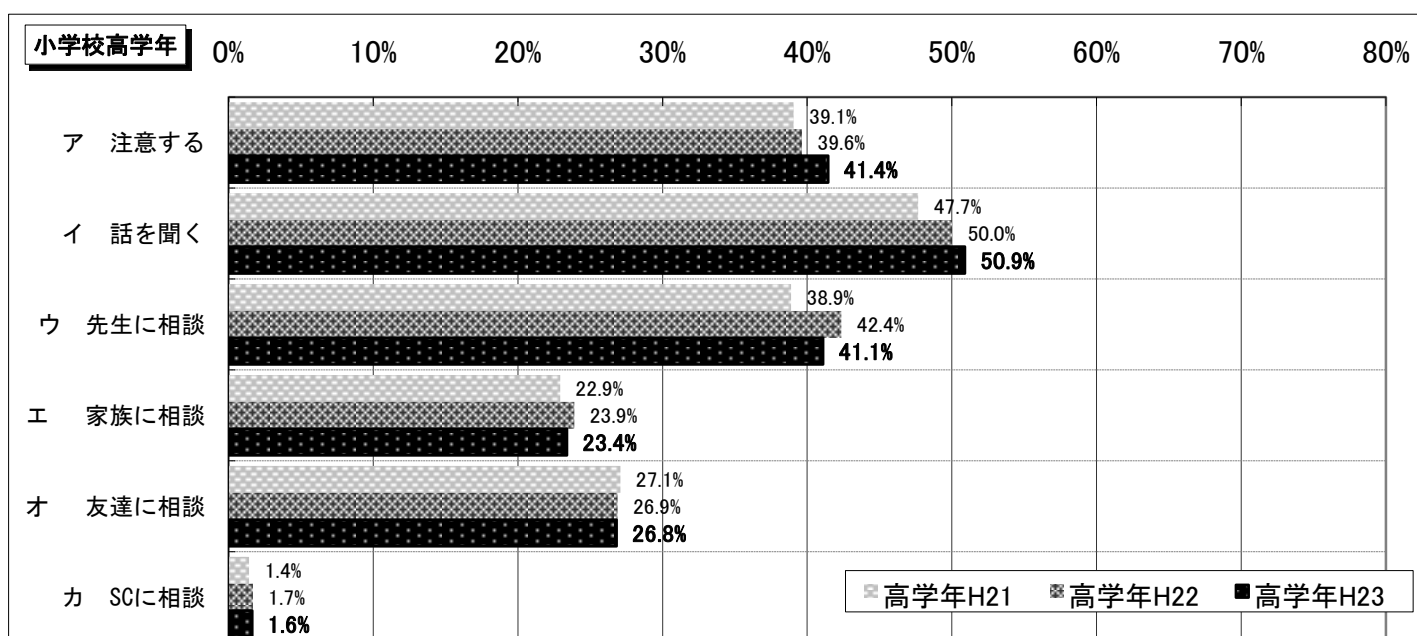
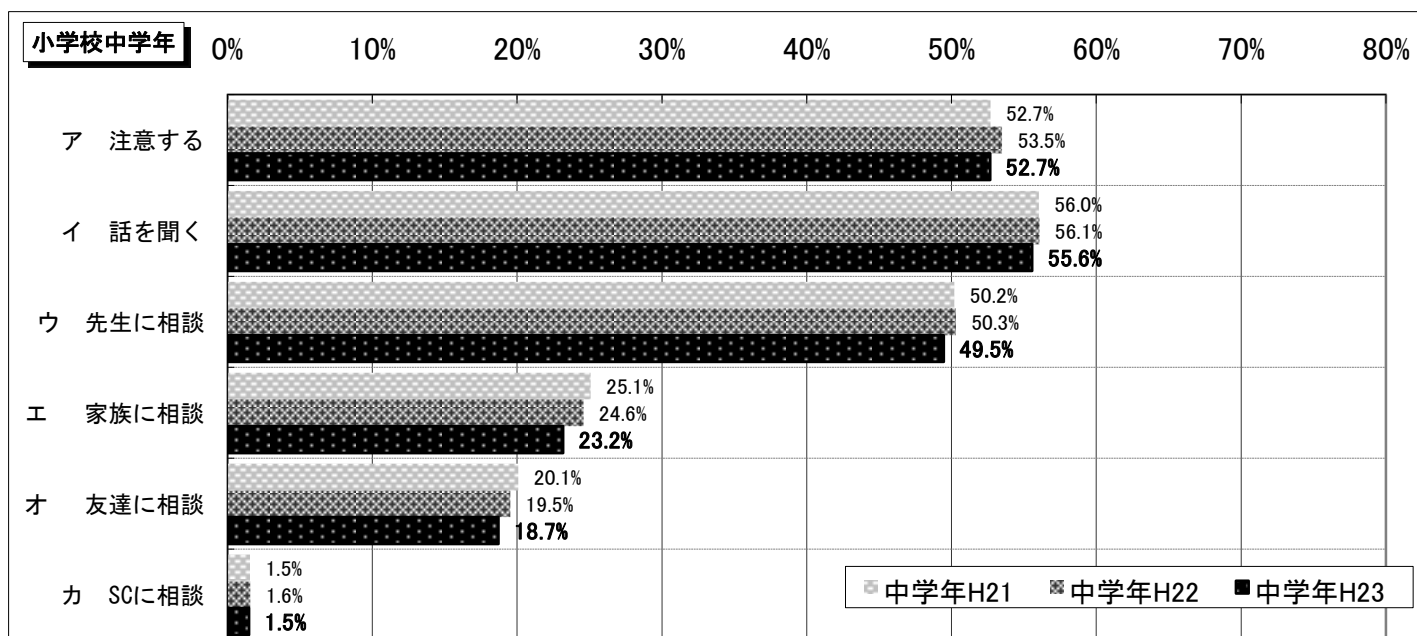
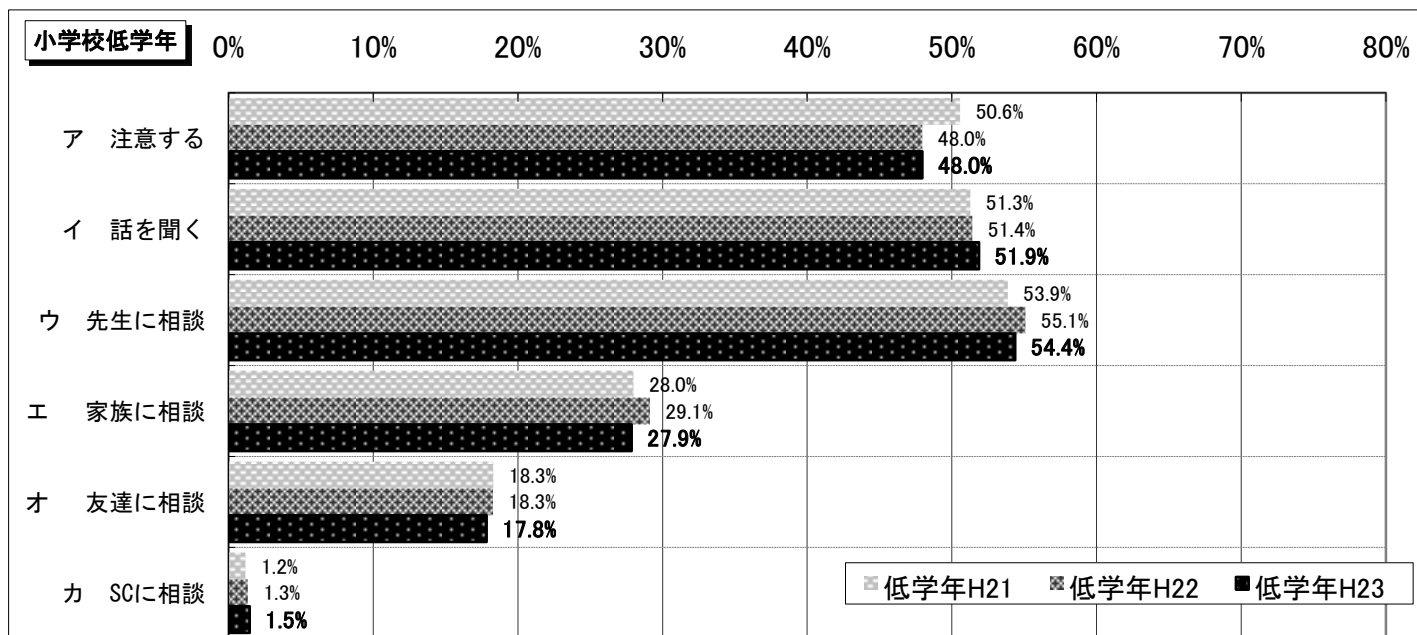
- 【設問8】 あなたは、だれかがいじめられていることを知ったらどうしますか。（複数回答）
- ア いじめている人に注意する
 - イ いじめられている人の話をきいてあげる
 - ウ 学校の先生に相談する
 - エ 家族に相談する
 - オ 友達に相談する
 - カ スクールカウンセラーに相談する
 - キ どうしたらよいかわからない
 - ク 自分には関係ないので何もしない



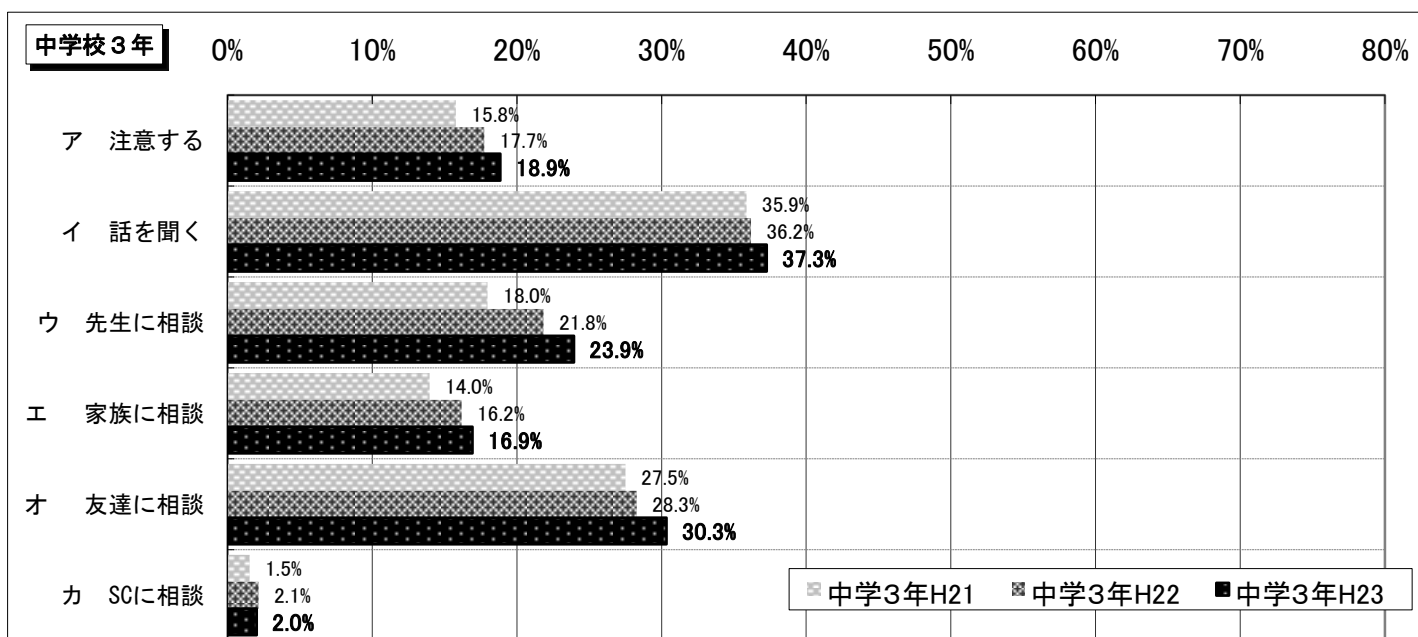
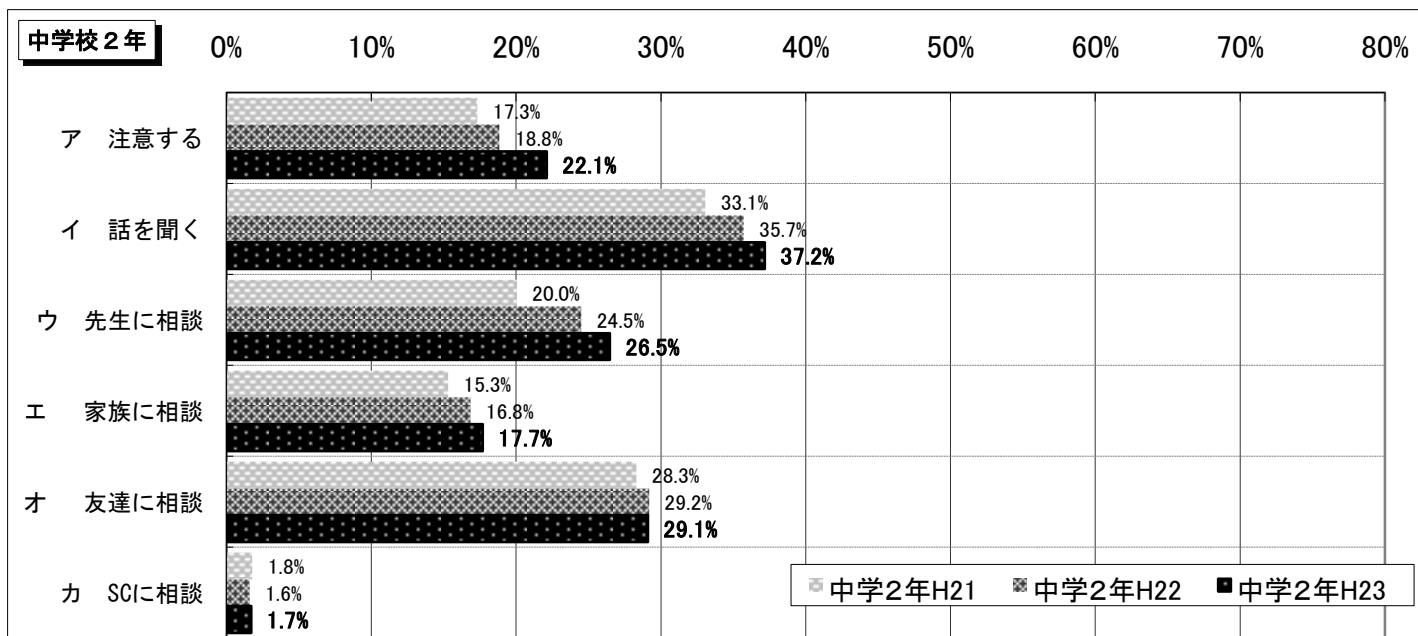
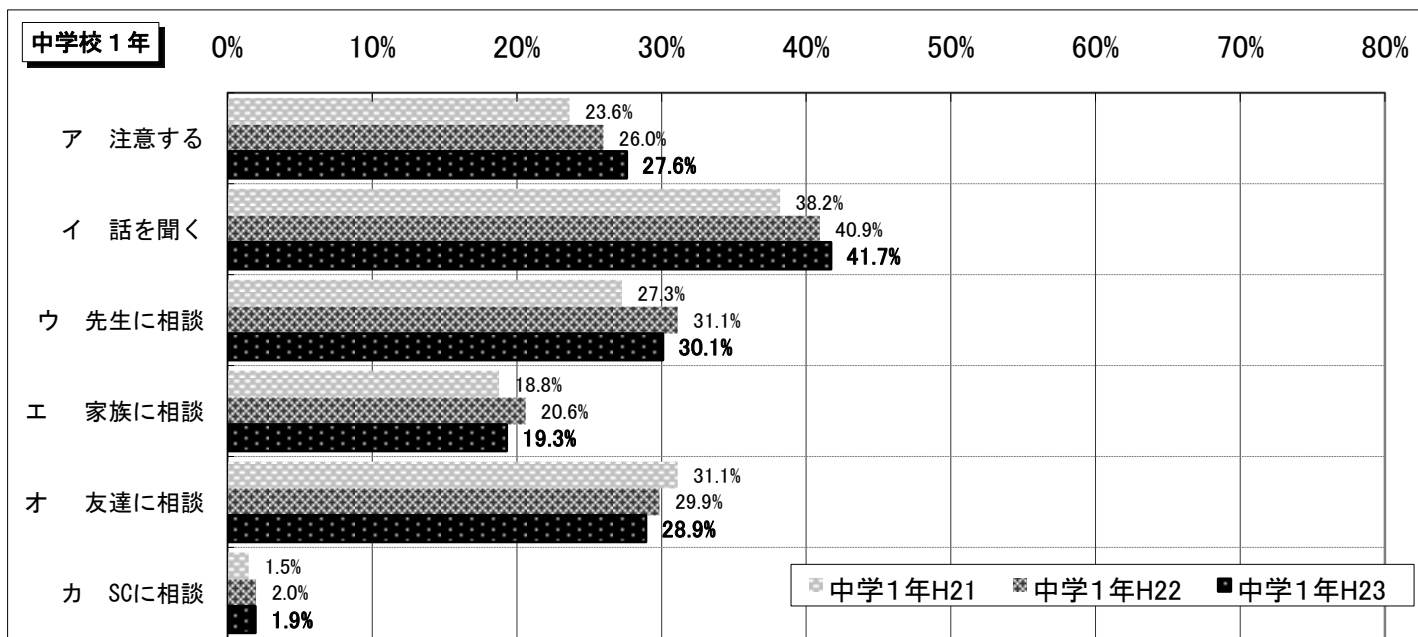
【考察】

- ・すべての校種において、「何もしない」の割合が減少しており、いじめられている子にかかわろうとする子どもたちの姿勢がうかがえる。
- ・「わからない」と答えた中・高生が、小学生に比べて多い。思春期に見られる心理などを踏まえ、子どもとの信頼関係を深めていくことなど、発達段階に応じた指導と対応が必要である。

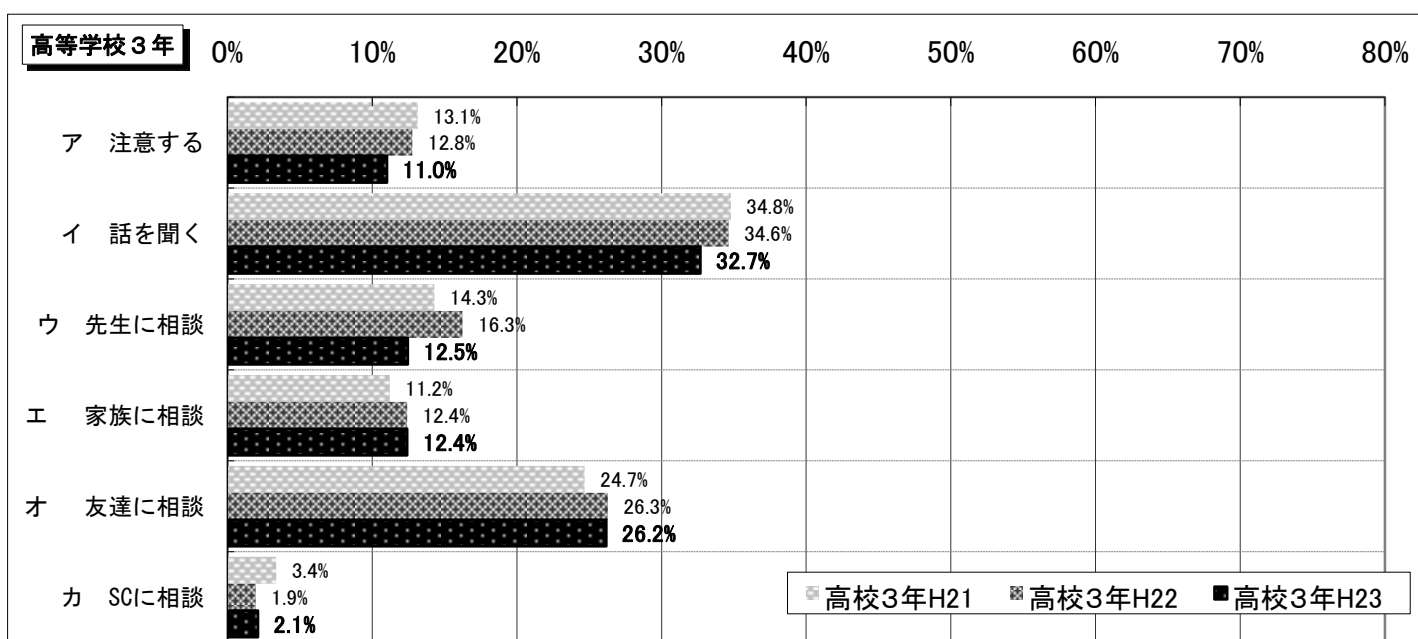
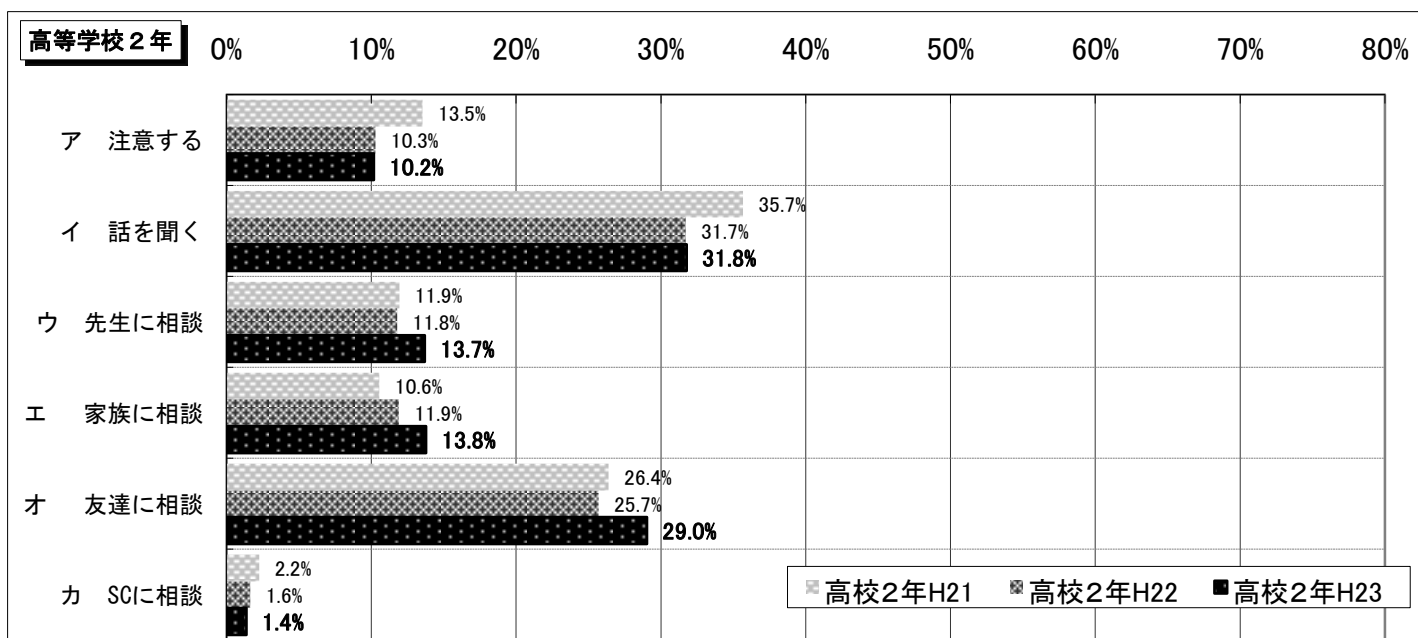
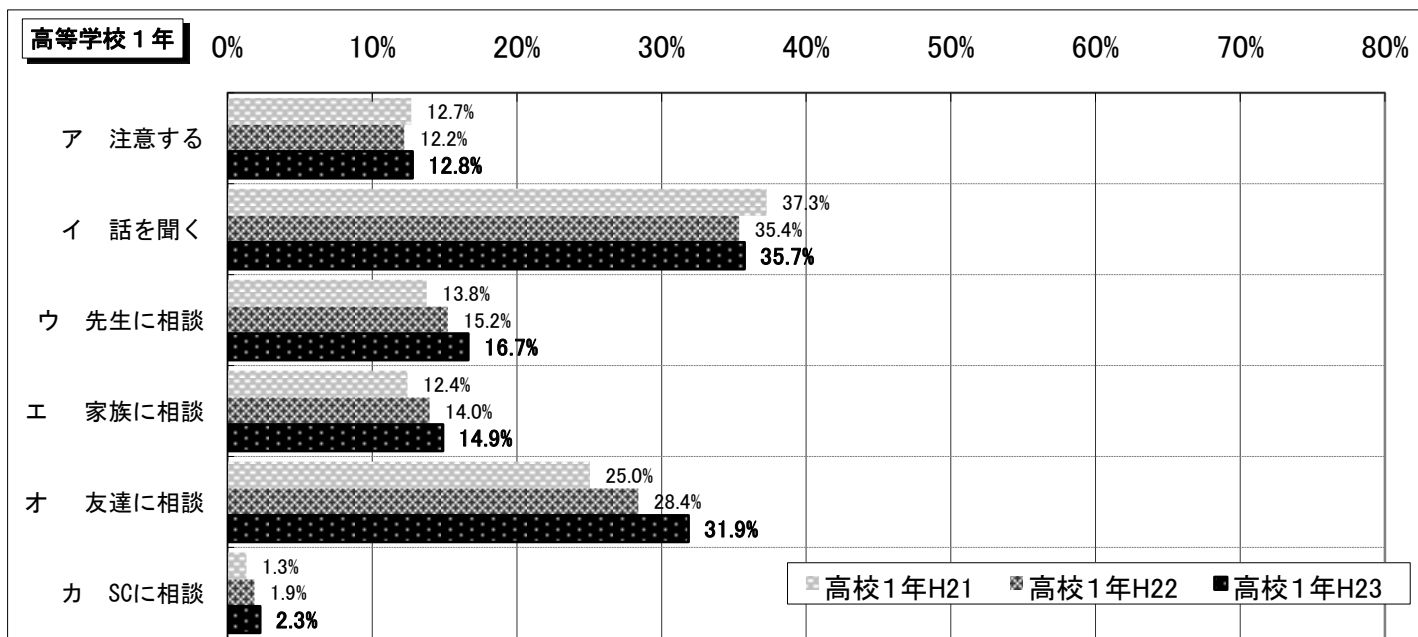
●いじめを知ったらどうするか<小学校低・中・高学年別>



●いじめを知ったらどうするか<中学校学年別>



●いじめを知ったらどうするか<高等学校学年別>



9 あなたは、小学校に入学してから、これまでいじめたり、いじめられたりしたことがありますか。

【設問9】 あなたは、小学校に入学してから、これまでいじめたり、いじめられたりしたことがありますか。

- ア いじめたこともいじめられたこともある
- イ いじめたことはあるが、いじめられたことはない
- ウ いじめたことはないが、いじめられたことはある
- エ いじめたこともいじめられたこともない

<校種別人数>

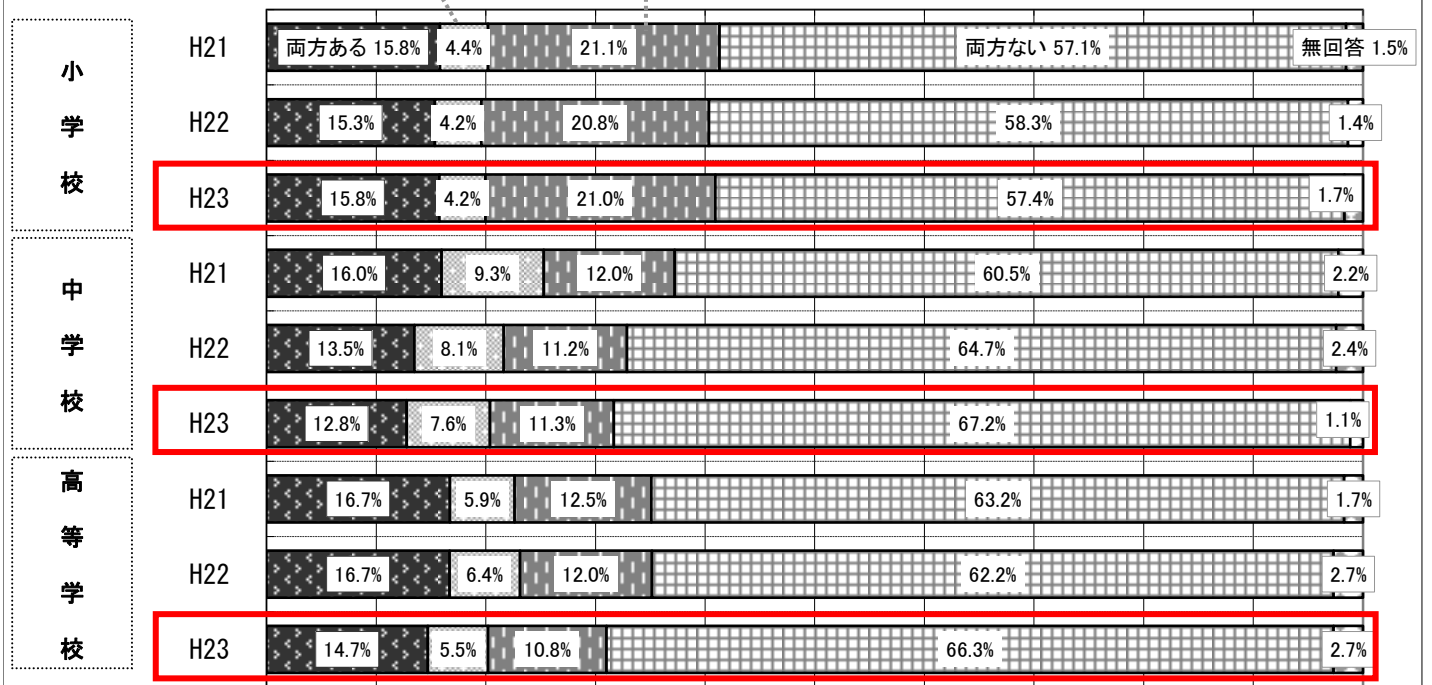
(人)

H21	小学校	中学校	高等学校	全体
両方ある	14,227 (15.8%)	6,879 (16.0%)	1,108 (16.7%)	22,214 (15.9%)
いじめたことだけがある	3,951 (4.4%)	4,014 (9.3%)	392 (5.9%)	8,357 (6.0%)
いじめられたことだけがある	18,997 (21.1%)	5,155 (12.0%)	826 (12.5%)	24,978 (17.9%)
両方ない	51,406 (57.1%)	26,078 (60.5%)	4,186 (63.2%)	81,670 (58.5%)
調査提出数	89,967 (—)	43,092 (—)	6,626 (—)	139,685 (—)

H22	小学校	中学校	高等学校	全体
両方ある	13,818 (15.3%)	5,862 (13.5%)	1,156 (16.7%)	20,836 (14.8%)
いじめたことだけがある	3,815 (4.2%)	3,536 (8.1%)	443 (6.4%)	7,794 (5.6%)
いじめられたことだけがある	18,701 (20.8%)	4,886 (11.2%)	832 (12.0%)	24,419 (17.4%)
両方ない	52,477 (58.3%)	28,095 (64.7%)	4,302 (62.2%)	84,874 (60.4%)
調査提出数	90,055 (—)	43,441 (—)	6,918 (—)	140,414 (—)

H23	小学校	中学校	高等学校	全体
両方ある	14,051 (15.8%)	5,596 (12.8%)	1,056 (14.7%)	20,703 (14.8%)
いじめたことだけがある	3,762 (4.2%)	3,322 (7.6%)	394 (5.5%)	7,478 (5.3%)
いじめられたことだけがある	18,699 (21.0%)	4,946 (11.3%)	775 (10.8%)	24,420 (17.4%)
両方ない	51,193 (57.4%)	29,399 (67.2%)	4,758 (66.3%)	85,350 (60.9%)
調査提出数	89,204 (—)	43,766 (—)	7,175 (—)	140,145 (—)

いじめたことだけがある 0% 10% 20% **いじめの有無の校種別割合** 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% いじめられたことだけがある



【考察】

・「いじめたこともいじめられたこともない」と回答した児童生徒は、全体で60.9%であり、いじめにかかわったことがない割合は少しずつではあるが増加してきている。また、両方の経験があるとした児童生徒も年々減少している。一方で、過去にいじめたりいじめられたりしたことがあると回答した児童生徒が4割弱いる。

10 あなたは、いじめについてどう思いますか。

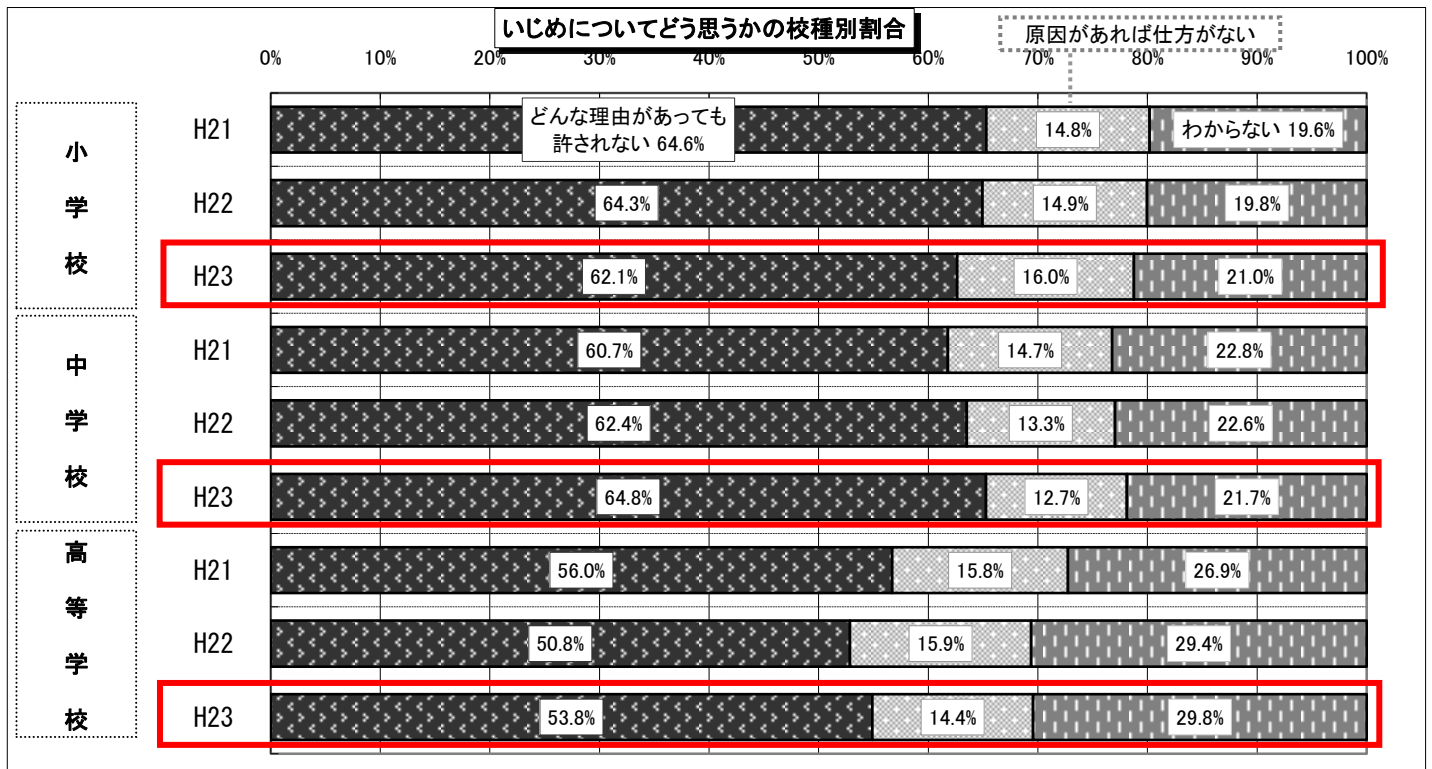
【設問10】 あなたは、いじめについてどう思いますか。

- ア いじめはどんな理由があっても許されないことだと思う
- イ いじめられている人にも原因があればしかたないと思う
- ウ よくわからない

<校種別人数>

(人)

	小学校	中学校	高等学校	全体
H21				
どんな理由があっても許されない	58,109 (64.6%)	26,140 (60.7%)	3,711 (56.0%)	87,960 (63.0%)
原因があれば仕方がない	13,275 (14.8%)	6,338 (14.7%)	1,050 (15.8%)	20,663 (14.8%)
わからない	17,620 (19.6%)	9,820 (22.8%)	1,783 (26.9%)	29,223 (20.9%)
調査提出数	89,967 (—)	43,092 (—)	6,626 (—)	139,685 (—)
H22				
どんな理由があっても許されない	57,931 (64.3%)	27,112 (62.4%)	3,511 (50.8%)	88,554 (63.1%)
原因があれば仕方がない	13,383 (14.9%)	5,771 (13.3%)	1,099 (15.9%)	20,253 (14.4%)
わからない	17,865 (19.8%)	9,804 (22.6%)	2,033 (29.4%)	29,702 (21.2%)
調査提出数	90,055 (—)	43,441 (—)	6,918 (—)	140,414 (—)
H23				
どんな理由があっても許されない	55,361 (62.1%)	28,339 (64.8%)	3,858 (53.8%)	87,558 (62.5%)
原因があれば仕方がない	14,252 (16.0%)	5,577 (12.7%)	1,032 (14.4%)	20,861 (14.9%)
わからない	18,763 (21.0%)	9,499 (21.7%)	2,139 (29.8%)	30,401 (21.7%)
調査提出数	89,204 (—)	43,766 (—)	7,175 (—)	140,145 (—)



【考察】

- ・全体で14.9%の子どもが「原因があれば仕方がない」と答えていることを重視し、子どもたち自身が「いじめは絶対許されない」という気持ちをもつとともに、子ども同士が互いに、声に出し、行動に示していくなど、いじめを容認しない気運を子どもたち自身が高めていくようにしていくことが大切である。
- ・人間関係におけるトラブル等の場面において、子どもたちが相手の気持ちにも配慮し、他者を尊重する態度で解決を図ることができるよう、道徳の時間をはじめ、学級活動や児童会・生徒会活動等を通じ、子ども向けのリーフレットも有効に活用するなどして指導していくことが求められている。

〈学校への調査の結果と分析〉

1 (1) 「わたしは、今、いじめられていると思う」と答えた児童生徒数と「いじめの疑いがある」と教師がとらえた児童生徒数の合計

【設問1(1)】 児童生徒の「いじめに関する意識調査」の設問1において「いじめられていると思う」と回答した児童生徒及び設問2において設問1以外の情報により、「いじめ

	小学校1年生				小学校2年生				小学校3年生			
	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計
いじめられていると思う児童生徒数(子供が回答した数)(人)	1,242	1,023	0	2,265	1,353	1,161	0	2,514	1,259	899	2	2,160
上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数(人)	2	1	0	3	1	1	0	2	4	5	0	9
合計(人)	1,244	1,024	0	2,268	1,354	1,162	0	2,516	1,263	904	2	2,169

	小学校4年生				小学校5年生				小学校6年生				小計			
	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計
いじめられていると思う児童生徒数(子供が回答した数)(人)	918	669	3	1,590	576	377	0	953	347	215	0	562	5,695	4,344	5	10,044
上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数(人)	6	6	0	12	14	7	0	21	16	11	0	27	43	31	0	74
合計(人)	924	675	3	1,602	590	384	0	974	363	226	0	589	5,738	4,375	5	10,044

	中学校1年生				中学校2年生				中学校3年生				小計			
	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計
いじめられていると思う児童生徒数(子供が回答した数)(人)	324	189	5	518	161	126	2	289	89	86	1	176	574	401	8	983
上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数(人)	31	23	0	54	30	22	0	52	15	8	0	23	76	53	0	129
合計(人)	355	212	5	572	191	148	2	341	104	94	1	199	650	454	8	1,112

	高等学校1年生				高等学校2年生				高等学校3年生				小計			
	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計
いじめられていると思う児童生徒数(子供が回答した数)(人)	10	8	0	18	5	3	0	8	7	0	0	7	22	11	0	33
上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数(人)	0	0	0	0	3	2	0	5	1	0	0	1	4	2	0	6
合計(人)	10	8	0	18	8	5	0	13	8	0	0	8	26	13	0	39

《総合計》

	年度	男子	女子	不明
いじめられていると思う児童生徒数(子供が回答した数)(人)	H21	6,209	4,837	78
	H22	6,368	4,765	79
	H23	6,291	4,756	13
上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数(人)	H21	169	121	0
	H22	199	138	0
	H23	123	86	0
合計(人)	H21	6,378	4,958	78
	H22	6,567	4,903	79
	H23	6,414	4,842	13

小学校	中学校	高等学校	総合計
9,939	1,142	43	11,124
10,096	1,074	42	11,212
10,044	983	33	11,060
126	161	3	290
105	224	8	337
0	129	6	135
10,065	1,303	46	11,414
10,201	1,298	50	11,549
10,044	1,112	39	11,195

【考察】

・相手に伝わることを恐れるなどして自己申告できない場合も考えられ、表面化していないいじめはなお存在する可能性があることから、学校においては、教育相談や調査など様々な方法により、日常的に子どもたちの行動や悩み等をきめ細かに見取るとともに、いじめを受けた子どもが気軽に相談できる体制を整備していく必要がある。

2 (2) いじめの疑いのある児童生徒を把握した手だて (複数回答)

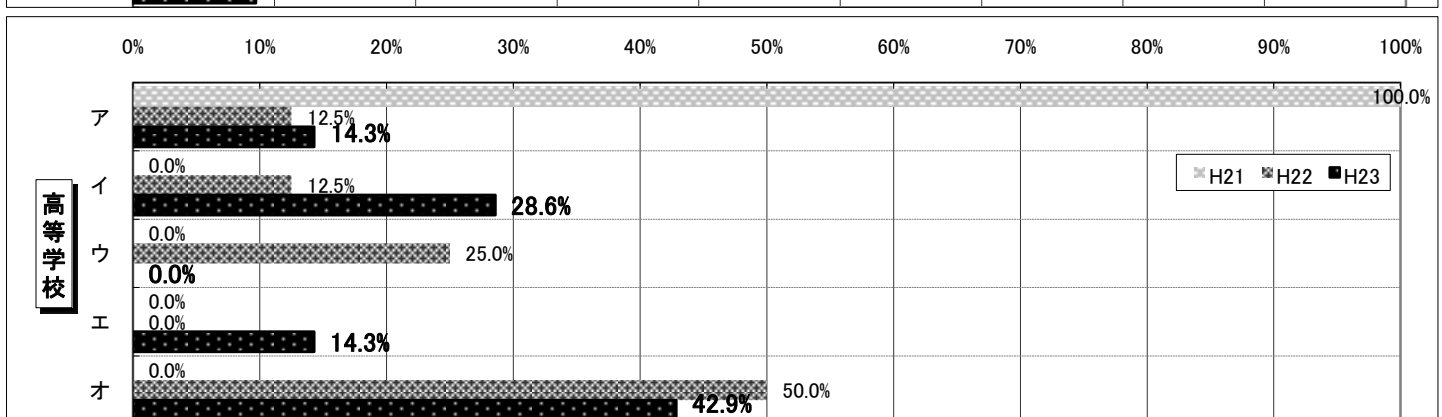
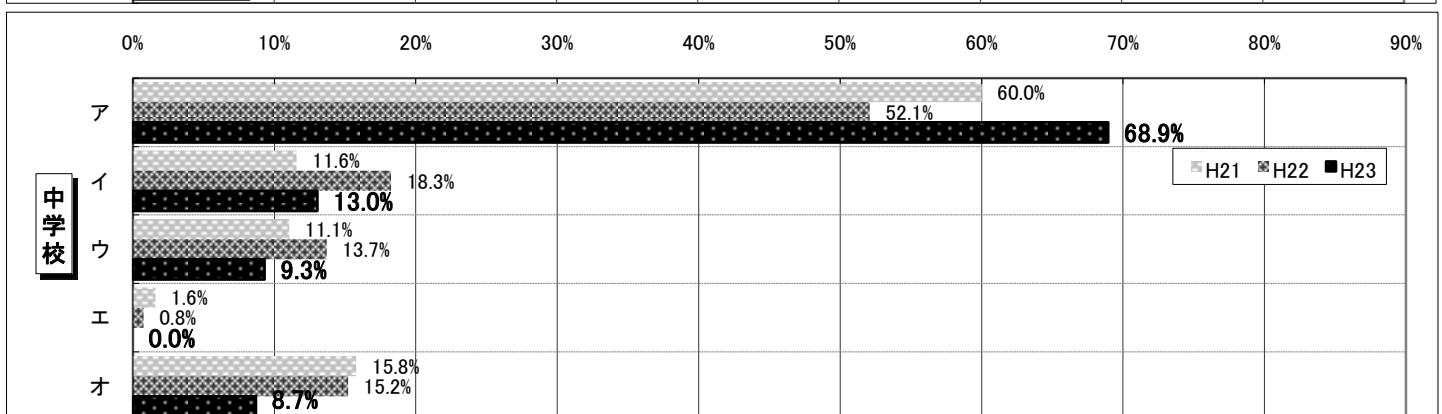
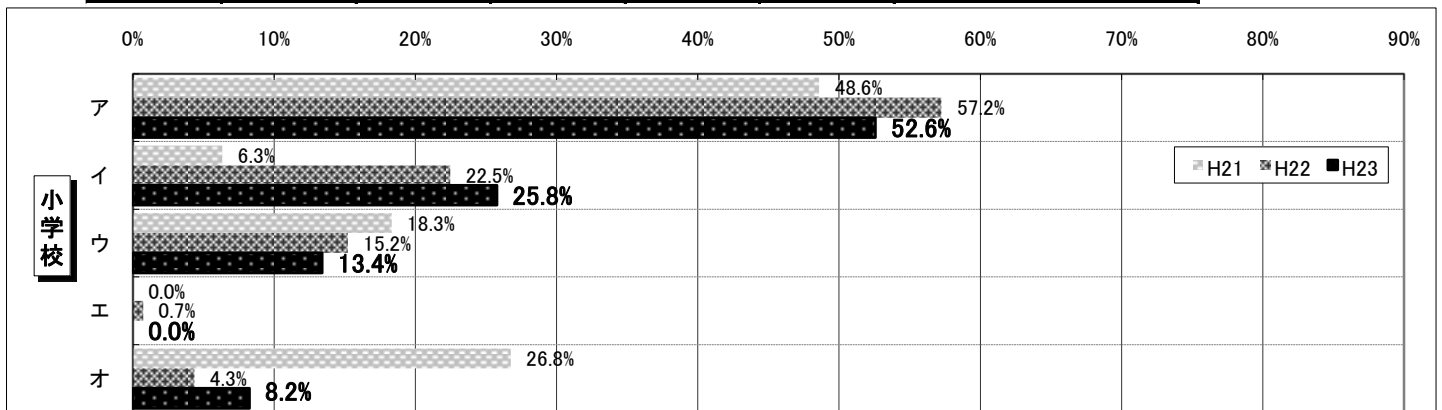
【設問1 (2)】 いじめの疑いのある児童生徒をどのような手だてで把握しましたか。

- ア 教師の観察によって把握した
- イ 本人ではない児童生徒からの教師への直接の訴えにより把握した
- ウ 保護者からの訴えにより把握した
- エ スクールカウンセラーからの報告により把握した
- オ その他

<校種別割合>

(%)

		ア	イ	ウ	エ	オ	総件数 (件)
H21	小学校	48.6%	6.3%	18.3%	0.0%	26.8%	142
	中学校	60.0%	11.6%	11.1%	1.6%	15.8%	190
	高等学校	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3
H22	小学校	57.2%	22.5%	15.2%	0.7%	4.3%	138
	中学校	52.1%	18.3%	13.7%	0.8%	15.2%	263
	高等学校	12.5%	12.5%	25.0%	0.0%	50.0%	8
H23	小学校	52.6%	25.8%	13.4%	0.0%	8.2%	97
	中学校	68.9%	13.0%	9.3%	0.0%	8.7%	161
	高等学校	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	42.9%	7



3 いじめ問題にかかわり、どのような取組をしてきたか、今後どのような取組を予定しているか。（複数回答可）

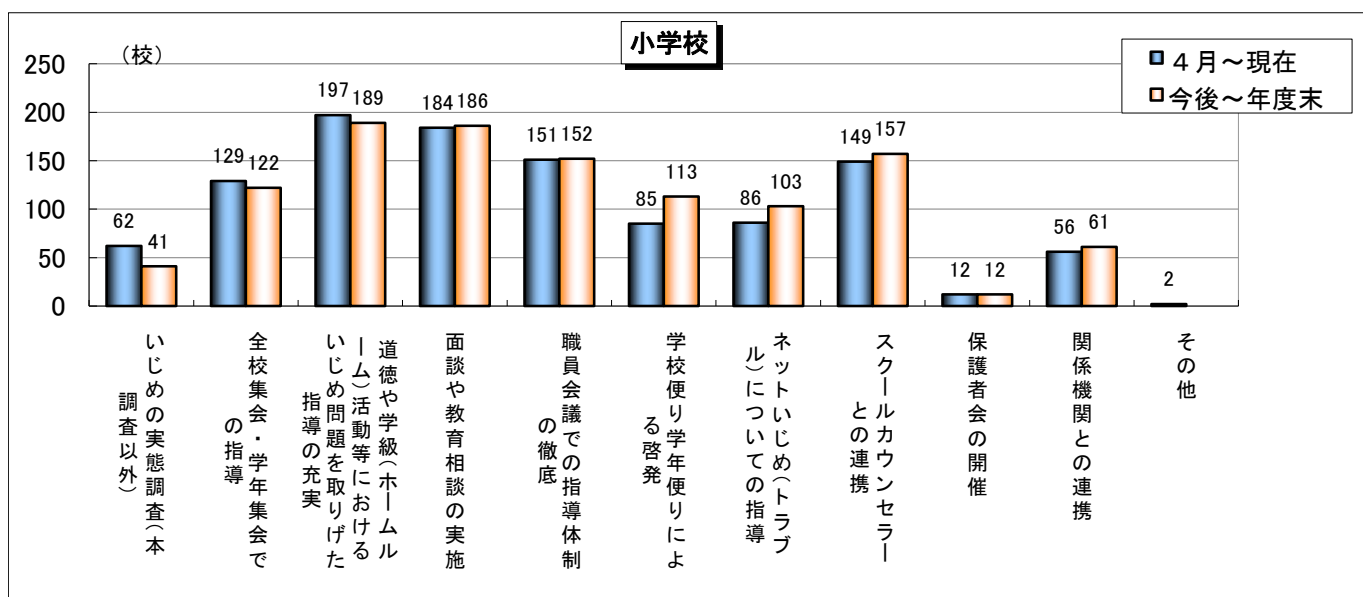
【設問2】 貴校において、いじめ問題にかかわり、これまでどのような取組をしてきましたか。また、今後どのような取組を予定していますか。

- 1 いじめの実態調査（本調査以外のもの）
- 2 全校集会・学年集会での指導
- 3 道徳や学級（ホームルーム）活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実
- 4 面談や教育相談の実施
- 5 職員会議での指導体制の徹底
- 6 学校便り学年便りによる啓発
- 7 ネットいじめ（トラブル）についての指導
- 8 スクールカウンセラーとの連携
- 9 保護者会の開催
- 10 関係機関との連携

【考察】

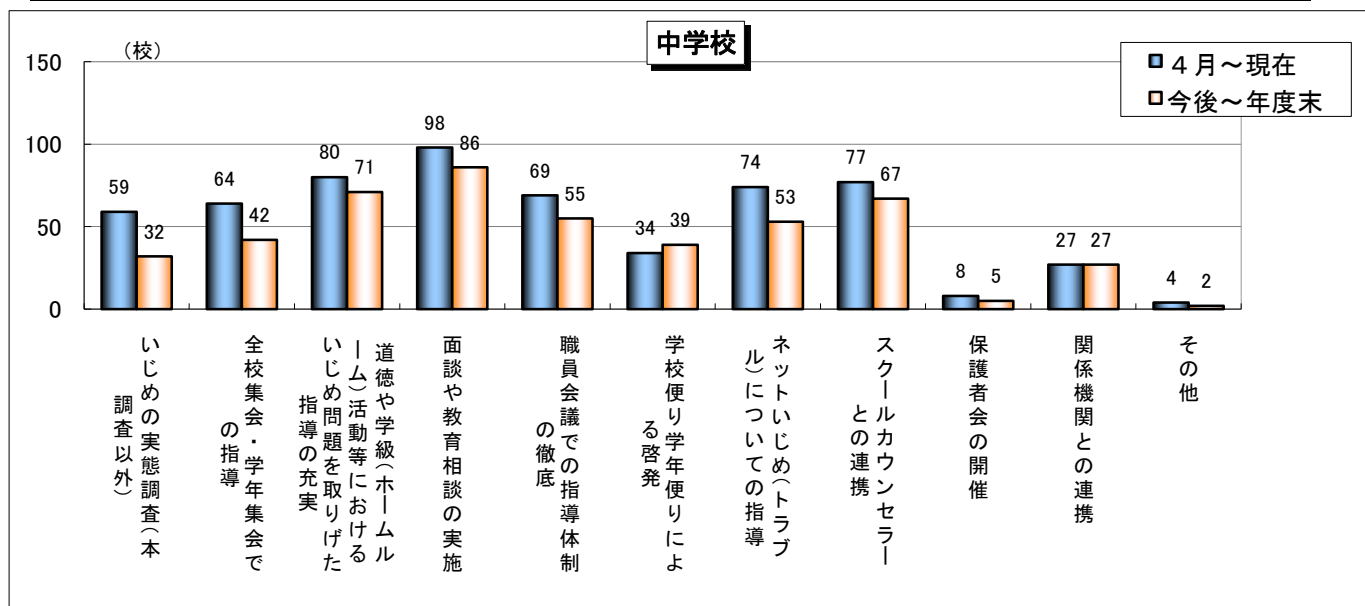
- ・小学校において、スクールカウンセラーの活用が定着してきている。
- ・「職員会議での指導体制の徹底」の数値が高い。特に小学校では担任一人で抱え込むことがないよう、教職員の共通理解のもと、学校体制でいじめの問題に取り組んでいくことをさらに進める必要がある。
- ・小・中学校においては、学校独自のいじめの実態調査を行う学校が増えてきている。また、すべての校種において、子どもとの面談（教育相談）を実施し、子ども自身の受け止めを重視した取組を行っている。さらに、日常の授業時間から、社会性の育成を重視した取組を進めることも重要である。
- ・学校においては、校内の取組について定期的に点検し、実効性の高い対応に努めることが必要である。

<小学校>	4月～現在	今後～年度末
1 いじめの実態調査（本調査以外）	62	41
2 全校集会・学年集会での指導	129	122
3 道徳や学級（ホームルーム）活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実	197	189
4 面談や教育相談の実施	184	186
5 職員会議での指導体制の徹底	151	152
6 学校便り学年便りによる啓発	85	113
7 ネットいじめ（トラブル）についての指導	86	103
8 スクールカウンセラーとの連携	149	157
9 保護者会の開催	12	12
10 関係機関との連携	56	61
11 その他	2	0



(校)

<中学校>	4月～現在	今後～年度末
1 いじめの実態調査（本調査以外）	59	32
2 全校集会・学年集会での指導	64	42
3 道徳や学級（ホームルーム）活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実	80	71
4 面談や教育相談の実施	98	86
5 職員会議での指導体制の徹底	69	55
6 学校便り学年便りによる啓発	34	39
7 ネットいじめ（トラブル）についての指導	74	53
8 スクールカウンセラーとの連携	77	67
9 保護者会の開催	8	5
10 関係機関との連携	27	27
11 その他	4	2



(校)

<高等学校>	4月～現在	今後～年度末
1 いじめの実態調査（本調査以外）	3	0
2 全校集会・学年集会での指導	6	4
3 道徳や学級（ホームルーム）活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実	2	4
4 面談や教育相談の実施	7	7
5 職員会議での指導体制の徹底	3	5
6 学校便り学年便りによる啓発	3	2
7 ネットいじめ（トラブル）についての指導	7	4
8 スクールカウンセラーとの連携	8	8
9 保護者会の開催	0	1
10 関係機関との連携	2	3
11 その他	0	0

